

JCHO NEWS



【特集】
病院機能評価受審促進!!

病院長フォーラム

病院の三役が集合しました



病院長集合



看護部長集合



事務部長集合

02 病院長フォーラム

03 TOPメッセージ

04 新任特任補佐・
院長メッセージ06 特集
病院機能評価
受審促進に向けて08 トピックス
職場チームによる
業務改善の取組み
に係る表彰09 トピックス
新任院長研修10 トピックス
熊本総合病院
増築棟竣工11 トピックス
航空機離発着訓練12 JCHO GROUP
施設一覧次回
予告 JCHO仙台病院が
「宮城大学と包括連携協定」を
結びました！

JCHO仙台病院：業務改善の表彰式



↑ 仙台南病院：看護部の皆さんと



東北大学医学部訪問：

右から仙台病院 村上栄一院長、
仙台南病院 朝倉徹院長、
東北大学 八重樫伸生医学部長、
山本理事長、楠理事

↑ 北里大学病院長訪問：

相模野病院 今泉弘院長、
北里大学 高相晶士病院長、
山本理事長、内野顧問

↑ 北里大学理事長訪問：

相模野病院 今泉弘院長、
北里大学 小林弘祐理事長、
山本理事長、内野顧問

TOPメッセージ

虫の目、鳥の目

山本 修一



今号から、巻頭言として本部理事が一言ご挨拶させていただきます。
JCHO全体の動きや目指すところを共有し、みなさんとの距離感が縮まり、
JCHO27000人のパワーの結集につながっていく一助になればと思っています。
「地域から信頼され続ける」ことが私たちJCHO病院の使命です。
そのためには「良質な医療の提供と健全な経営のバランス」を確保すること
が、何より重要であると考えています。

そこで欠かせないのが「虫の目と鳥の目」なのです。

目の前の現実に対処する虫の目を持つと同時に、広く先まで全体を
見渡す鳥の目を持っていないと、現状の忙しさに埋没してしまいます。
虫の目が日々の診療業務、鳥の目が病院の将来像とも言えます。
この二つの目線を病院の全員が持って医療と経営を変えていくことが、
強い病院になる秘訣だと思います。

しかし一方で、人はみな「目の前バイアス」を持っています。
目先のことが最優先になり、先のことを忘れてしまうのです。
それゆえ、鳥の目を持つのは容易ではありません。
日々の確な医療を提供する一方で、目線を上げて、社会状況（人口減少・
高齢化社会）、地域状況（自分の所属する病院がおかれた環境）、
病院の風土・イメージ、大学医局との関係などを見渡してみてください。
それぞれの要素が今後10年でどう変わっていくのか。
10年後の環境を見通しながら、何を変わっていくかといけないのか、
どんな準備をしていかないといけないのか。
日々のあり方を時間的・空間的視点を入れて改善・改革していくことが大切です。

コロナ後の医療環境の激変に対応すべく、
ぜひみなさんの知恵で病院の未来を拓いていきましょう。

虫の目
深く詳しく
見る目鳥の目
全体を
見る目

Shu's Room

現場のみなさんとの対話を始めました。これから1年以上かけて
全病院の若手職員と対話していきますぜひみなさんのご意見をお聞かせください！

東京蒲田医療センター

うつのみや病院

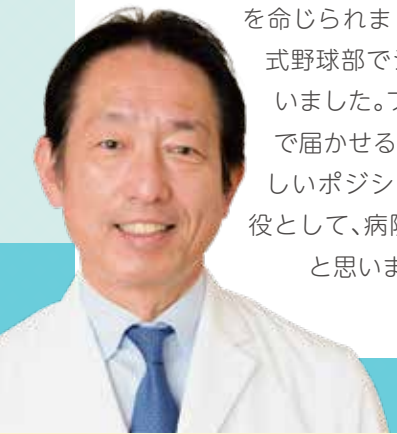
東京新宿メディカルセンター

《 新任特任補佐・ 院長メッセージ 》

役職は‘地位’ではない、 役割’である

理事長特任補佐 せきね のぶお
(東京新宿メディカルセンター) 関根 信夫

自院職員に、そして自分自身にも再三言い聞かせている言葉があります。『役職は‘地位’ではない、‘役割’である』この度、理事長特任補佐を仰せつかり、理事長からは‘遊撃隊’(?)としての役割を命じられました。私は大学時代、準硬式野球部でショート(遊撃)を守っていました。フットワーク軽く、遠くまで届かせる肩の強さが要求される忙しいポジションです。理事長の補佐役として、病院支援に力を尽くしたいと思います。



健康管理センターを新築し、 快適な環境整備へ

こいけ まさひこ
札幌北辰病院 小池 雅彦

この度、JCHO札幌北辰病院の院長に就任いたしました小池雅彦です。
1983年に北海道大学医学部を卒業後、北大第一外科に入局し、外科医一筋40年間が経過しました。この間いくつかの病院を経験しましたが、32年前に2年間お世話になった札幌北辰病院の院長に就任するというのは不思議な縁です。院長となり、その責任の重さを感じる毎日ですが、地域から信頼される病院になるよう努力してまいりたいと思います。



新病院開院を見据えて さらなる医療の質と 機能の充実を

おかずみ しんいち
千葉病院 岡住 慎一

本年2月1日に院長に着任いたしました。現在、来春の新病院の開院に向けて建築工事を進めています。当院は50余年にわたり地域医療に取り組み、新病院においても健診・透析センターを拡大し、さらなる発展を計画しております。運営にあたっては①医療安全と継続的な医療の質改善、②楽しく誇りを持って働ける職場環境醸成、③研修・教育体制の充実の方向性のもと、さらに進めてまいります。どうぞよろしくお願い致します。



一人ひとりがチームの一員 となり主体的に動く病院を

わたなべ まさし
東京蒲田医療センター 渡邊 正志

2023年4月よりJCHO東京蒲田医療センターの院長を拝命しました渡邊正志です。JCHOのトップの方々が「経営だけでなく、患者安全や医療の質も大切だ」と考えていてくれることは私にとって大きな励みになります。当院の多職種チーム「アナフィラキシー対応チーム」、「患者さん参加要請チーム」、ともに日本1を目指します。病院経営に対しても真摯に取り組みますので、ご指導のほどよろしくお願い致します。



地域に貢献する 医療を目指して

かわた のぞむ
横浜中央病院 川田 望

4月からJCHO横浜中央病院病院長に就任した川田望です。卒業から約40年間日本大学で泌尿器科医として日々務めてまいりました。これからは地域住民の多様なニーズにこたえ、地域住民の生活を支えるため皆様の立場に立った医療を提供し、今後も「温かい心と気配りの医療」を基本理念に皆様のお役に立ちたいと考えています。そして今後も変わらぬ姿勢で、進む高齢化社会に対処して皆様と共に明るい未来を創っていきたいと思います。



末永く健康で 生き生き暮らせる街づくり

かじた やすかず
可児とうのう病院 梶田 泰一

可児とうのう病院長就任に際してご挨拶申し上げます。私は脳神経外科医として名古屋大学や名古屋医療センターで、パーキンソン病やてんかんの手術に明け暮れてまいりました。今回、病院運営が任されますことは、私の中で新たなページをめくることになります。タイトルが最初の章立てです。当地域も高齢化が進んでいます。命を大切にする医の倫理を守り、患者さんのQOLが少しでも向上するように、職員一丸となって質の高い医療や介護に努めます。



アフターコロナを 団結して乗り越えよう

そのはた もとき
佐賀中部病院 園畑 素樹

このたびJCHO佐賀中部病院の院長を拝命いたしました。大学院を含めると20年以上の大学勤務を経て昨年副院長として着任したばかりであり、大任に身が引き締まる思いです。病院を取り巻く環境は決して楽観できるものではありませんが、アフターコロナを職員一同一致団結して乗り越えていこうと思います。より良い医療の提供と健全な病院経営を目指して邁進していきますので、ご指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い致します。



温泉豊かな 湯布院病院

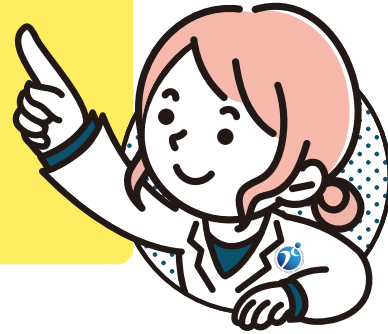
しん しゅうた
湯布院病院 針 秀太

このたび院長を拝命いたしました地元出身の針秀太です。よろしくお願いします。
温泉観光地「湯布院」という自然豊かな環境のなか、当院は設立当初から、リハビリテーションを核とした医療を推進しています。特に天然温泉を利用した「温泉プール」による訓練は、県内外の方々に好評を得ています。スタッフは熱意や向上心を持って365日対応しており、当院の誇りです。今まで培ってきたノウハウを大切に、さらに発展させていきたいと思っています。



病院機能評価を受審して、 病院の質改善につなげよう！

病院機能評価は、業務改善を通して
病院の経営や職員のモチベーションを根底から支えるための、
そして何より、
良質な医療を患者さんに提供するための重要ツールです。
JCHOの全病院が病院機能評価を受審することが
戦略目標となりました。



病院機能評価とは？

ひょうかちゃん

病院機能評価とは、日本医療機能評価機構が中立的、科学的・専門的な見地から評価を行う、病院の質改善活動を支援するツールです。総合入院体制加算、急性期充実体制加算等の施設基準となっているほか、地域医療支援病院については、良質な医療を提供するための取組をより一層高めていくためにも、第三者による評価を受けていることが望ましいとされています。

JCHO本部では、チームJCHOとして 病院機能評価受審を応援するため、 助成制度を創設しました！

（令和5年度～令和9年度の時限的措置）

※令和6年度以降の助成対象、助成額等については各年度でお知らせする予定です！

令和5年度の助成制度についてご紹介

令和5年4月1日時点で
病院機能評価の認定を
受けている病院

アドバイザー病院への助成

- 助成額
・1病院につき100万円。
・年度内に複数の病院に対応等を行った場合は、追加で50万円。
- アドバイザー病院の要件
JCHO病院からの病院機能評価に関する相談等について対応すること等
- 助成金申請メ切
令和5年5月末日

令和5年度中に
病院機能評価の
申し込みを行った病院

受審費用の助成

- 助成額
令和5年3月31日以前(令和5年4月1日以降に受審を予定している場合に限る)または令和5年4月1日～令和6年3月31日の期間内に受審申し込みを行った場合に、1病院あたり100万円。
- 助成金申請メ切
評価機構への受審申し込みの翌月末

令和5年度中に評価機構が
提供している受審サポートの
申し込みを行った病院※

受審サポート費用の助成

- 助成額
助成期間内で、1病院あたり合計25万円を上限として実費相当額を助成。
- 助成金申請メ切
評価機構への受審サポート申し込みの翌月末
- ※本助成対象となる病院は、令和5年4月1日時点で病院機能評価の認定が有効期限外または受審経験がない病院に限る。

病院機能評価の受審は病院機能向上の絶好のチャンス

★福井勝山総合病院の体験談★

メリット

- ❖認定されたことで、地域や患者さんへのアピールになった。
- ❖第三者から評価を受けることによって自院の課題を再認識し医療の質改善に繋がった。
- ❖各部署や委員会等において、業務のマニュアル更新が進んだ。
- ❖認定に向けての活動を通して職員間の結束が強まった。
- ❖認定を受けたことによって、職員一人一人の自信に繋がった。
- ❖多職種間や部署間の連携と組織体制強化が図られた。

苦労したこと

- ❖受審準備を進める中で、普段の業務に加えワーキンググループや委員会等に要する時間が必要で調整が難しかった。
- ❖業務の見直しやマニュアル整備等において、他病院からの情報共有があるとより助かる。
- ❖部署やワーキンググループ等の関係職員が決められたスケジュールどおりに準備を進めていくことが大変であった。
- ❖受審準備を進める中で、関係職員へ必要な情報を伝達させることが難しかった。



コロナ禍、感染対策も万全に推進した【病院機能向上委員会】

JCHO福井勝山総合病院 院長 須藤 弘之

当院は2022年7月28、29日に病院機能評価の認定更新のため受審しました。新型コロナウイルス第7波のピークの時期と重なりましたが、職員一同一致団結し乗り越えることができました。

2021年10月に「病院機能評価受審対策委員会」を設置しました。コロナ禍で受審準備のための時間の調整がより一層困難な中、毎月委員会を開催し進捗状況を適宜細かく確認することで、スケジュール通りに概ね準備を進めることができました。同時に自院の課題も共有でき、職員間の結束も強まりました。受審当日の部署訪問の際は私も一緒に各部署を回り、サーベイヤーから病院としての本気度を高く評価して頂きました。認定後は各職員の自信や誇りにつながるとともに地域へのアピールにもなりました。

現在同委員会は「病院機能向上委員会」と名称変更し、継続的に病院の質改善に取り組んでおります。病院機能評価の受審は、病院機能向上の最善の方法であると強く感じます。



職員が働き続けられる職場づくり！その思いのもとに取り組んだ

優秀
ポスター賞

『ストップ・ザ・離職』

東京山手メディカルセンター 看護部長 野村 仁美

この度は、優秀ポスター賞という栄えある賞をいただき、感謝申し上げます。

この取り組みは、コロナ禍において全国的にも深刻化している「看護職の離職」に着眼し、働き続けられる職場づくりを目指してスタートしました。優先すべきは現状把握ということで、「医療従事者の負担軽減・処遇改善検討委員会」協力のもと、東京都医療勤務環境改善支援センターのサポートを受けて、全職員にアンケート調査及びヒアリングを実施しました。

その結果、数々の課題発見がありましたが、解決の糸口となるのは『管理者教育』であると考え、まずは看護師長・副看護師長合同ワークショップ等を実施し、ビジョンの共有やスキルアップに努めました。そして勤務環境の改善に際し、①瞬発力があり短期的成果につながる外発的な動機付けに関すること②持続力があり仕事にコミットする内発的な動機付けに関すること、この両面について取り組みを行いました。結果として、離職率は8.5%（前年度比7.2%減）に低下しました。

今後も引き続き、職員が働き続けられる職場づくりを目指し、勤務環境の改善に努めていきたいと思います。そこでキーマンとなるのはやはり看護師長です。看護師長が元気でないと！ということで、ガッツポーズの写真を添付いたします。

この度は、誠にありがとうございました。

現状把握

東京都医療勤務環境改善支援センター事業に参加

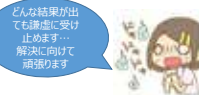
【導入支援（現状分析・課題抽出支援）】

「何から取り組むべきかわからない」「職員の満足度（意識）から課題や魅力を把握したい」などの医療機関を対象に、職員アンケート調査及び管理者・職員へのヒアリング等から、**課題及び魅力**の抽出を行い、改善計画策定までを支援する

医療従事者負担軽減委員会・幹部会議の承認を得て取り組み開始（全職種対象）

- 職員アンケート：回答率**67.3%**（481名/715名）※対象は常勤・非常勤
- ・外発的な動機付け：勤務時間と休息、休日・休暇、職員の健康支援、勤務環境の改善
 - ・内発的な動機付け：業務手順・ストレス軽減、気持ちの良い仕事の進め方、活躍できる職場の仕組み
 - ・これからこの病院で働き続けたいと思っているか

- ヒアリング：**72名**（調査対象者の1割）
職員1名に対しセンター職員3名で実施
※当然プライバシーに配慮！



こつこつ、こつこつ地道な取り組み

【外発的な動機付け】

- 労務管理（業務量把握と調整、超過勤務命令…ルールの明確化）
- 携帯ストップの色分け（日勤・夜勤）による超過勤務削減対策
- 業務改善（会議・看護記録等の効率化、入院セット（紙おむつセット）の導入等）
- 特殊勤務手当の拡充（救急外来）
- 『モノ』の整備
- リエゾンナースによるピア・サポート（コロナ病棟を中心に）

等々

・瞬発力
・短期的成果

【内発的な動機付け】

- 固定チームニングの再構築（副看護師長会）
- RRS(Rapid Response System)の発足（CCOT）
- 朝ミーティングの実施（管理者間のタイムリーな情報共有、リリーフ体制の整備等）
- 病棟運用ルールの策定（稼働率↓病床の活用）
- キャリアラダーの見直し ■院外研修・学会参加の推進
- 院内留学（個人のキャリアアップ・病棟人員の確保…手術室→病棟へ2名）
- リリーフ体制の整備 ■必要度Ⅱへの移行 ■業績評価フィードバックの強化
- 看護師長会議事録運用の見直し（正しい情報・タイムリーな伝達）
- 看護部委員会体制の見直し（ムダの排除、連携の強化）

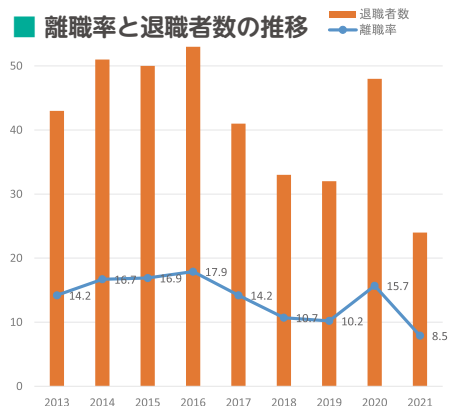
等々

・持続力
・仕事にコミット

取り組み の成果

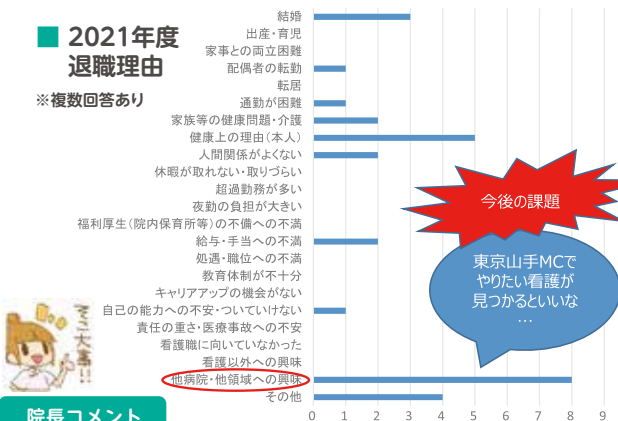
2021年度の
常勤看護職員
離職率

8.5%
(前年度比
7.2%減)



2021年度 退職理由

※複数回答あり



今後の課題

東京山手MCで
やりたい看護が
見つかるといいな
...

院長コメント

2020年度の看護師の離職率は、コロナ禍で2019年度の1.5倍に激増しました。2021年度は全看護師長・副看護師長が一丸となって看護師のモチベーションを上げるべく様々な取り組みをし、過去最低の離職率を達成することができました。感謝致します。

院長 矢野 哲



園畑 院長
(佐賀中部病院)

渡邊 院長
(東京蒲田医療センター)

川田 院長
(横浜中央病院)

岡住 院長
(千葉病院)

梶田 院長
(可児とうのう病院)

小池 院長
(札幌北辰病院)

針 院長
(湯布院病院)

新たに7人の院長が就任しました！

令和5年度新任院長研修を開催

開催日時：令和5年4月19日（水） 開催形態：集合研修（地域医療機能推進機構本部 研修棟3階会議室）



新しい院長が
何をやっていこうと
しているのかを、
病院がどこに向かおうと
しているのかを
職員にわかって
いただくことが重要

受講された院長先生の感想

病院運営には長期的なビジョンが必要であることを改めて再認識しました。また、本部の先生方が親身に疑問に答えてくださったのが、一番の収穫でした。JCHOグループの一員であることを実感でき、院長であることの孤独感が少し癒されました（笑）。

山本理事長からJCHO全体の方針を直接伺うことができたのは貴重な体験でした。

院長に求められる認識、職務、培うべき人間力を学びました。

他者への思いやりそして嫌われる勇氣について伺い、目の覚める思いでした。

コミュニケーションの重要性から記者会見の方法まで、あらゆることを具体的に示して頂き大変参考になりました。

厚生課では今後の研修について「教育のJCHO」を実現すべく、特に既存研修について現状のニーズ等に合致しているかなど、研修委員会を通じ検証し、必要に応じてスクラップ&ビルドを含めた見直しを行うことにより、研修の充実を図るよう検討してまいります。



熊本総合病院は北館を竣工いたしました

—病める者は私のもとに来なさい—

JCHO熊本総合病院 病院長 島田 信也

当院は、本年2月末に北館を竣工しました。

手狭であった該当部署（外来部門・健康管理センター・内視鏡センター・人工透析センター・手術センター・当直室・倉庫・大ホールなど）の拡張目的で、本部から「本館と一体となる北館増築計画」の許可を得ることができました。誠に有難うございます。

そして、3月25日に山本理事長を始めとする各界のVIPの皆様のご臨席の下、盛大な「北館竣工パーティー」を開催いたしました。

竣工記念のモニュメントとして「アスクレピオスの噴水」を北館玄関前に設置いたしました。

「アスクレピオス」はギリシャ神話における医療の神様です。

その医術の技は、死者をも蘇らせたといわれています。

地上での医術の功績が認められ、死後は「へびつかい座」として天に祭られました。杖に蛇の巻き付いた「アスクレピオスの杖（蛇杖）」は、医療・医術のシンボルとして世界的に用いられています。



▲「アスクレピオスの噴水」の除幕式



▲大ホール

この度、関ヶ原のアーチストが、2m立方体の大理石に鑿の一刀彫で息を吹き込み、アスクレピオスは、へびつかい座からこの熊本総合病院に降臨しました。その時の言葉が「病める者は私のもとに来なさい」です。

「アスクレピオスの前に跪く病める者」の第一号は、取りも直さず私自身、

- ①「天に則り私を去る努力」を怠ってはいないか、
- ②皆様に対する「思いやりの心」を磨いているか、
- ③「公のために貢献」しているか、など、自分自身も病める心を神に清めて頂きました。

今後とも、私共の熊本総合病院は、全職員が「医療のみならず『まちづくり』にも貢献する」ことを念頭におき、さらに精進して参ります。

▼内視鏡センター



北館竣工パーティー

2023.3.25



災害拠点病院 「航空機離発着訓練」

JCHO南海医療センター 地域医療連携室 医療社会事業専門員 秋山 義輝

JCHO南海医療センターは、災害拠点病院です。関係機関とより一層の連携強化を図りながら、有事の際には地域の中心となり、その使命を全うできるよう職員一同精進しております。

当院が所在する佐伯市は、大分県南に位置する海と山に囲まれた自然豊かな市です。

数年前に佐伯市からヘリポートが無くなり、2017年の新築工事の際に病院屋上にヘリポートを設置しました。ドクターヘリや防災ヘリでの患者搬送・受入、他医療機関の患者様のヘリ転院搬送、現場の救急隊が要請したドクターヘリとのドッキング地点として、機能を果たしております。

今回、当院ヘリポートが、海上保安庁の航空機「はまちどり」における重量の耐用判断を認められ、海上保安庁の航空機離発着場所として当院にお声掛けをいただきました。

そこで、運行開始するにあたり、2023年1月31日(火)に、佐伯海上保安署等と合同で当院ヘリポートを使用した患者搬送訓練を行いました。

本訓練は、災害発生時を含めた洋上で救助した傷病者等を、当院ヘリポートを使用して直接搬送する方法等を確認し、病院関係者及び佐伯海上保安署等関係者間における連絡体制の構築、連携深化することを目的に行われました。

病院に設置されたヘリポートを使った訓練は、大分県内では初めての取り組みとなりました。

ヘリコプター（はまちどり）の機体は非常に大きく、機体が建物に近づくに連れ、音と風圧には圧倒されました。訓練後にフライトスタッフとの意見交換も行い、非常に貴重な経験ができました。

佐伯海上保安署 玉野晃署長(当時)、南海医療センター 森本章生院長、武内裕統括診療部長(写真右から)



本部

〒108-8583 東京都港区高輪 3-22-12 ☎ 03-5791-8220
<https://www.jcho.go.jp>

JCHO 研修センター

〒160-0022 東京都新宿区新宿 5-5-10 ☎ 03-6685-3680

北海道東北地区事務所

〒981-3281 宮城県仙台市泉区紫山 2-1-1 ☎ 022-378-8801

関東地区事務所

〒108-0074 東京都港区高輪 3-22-12 ☎ 03-3445-0800

東海北陸地区事務所

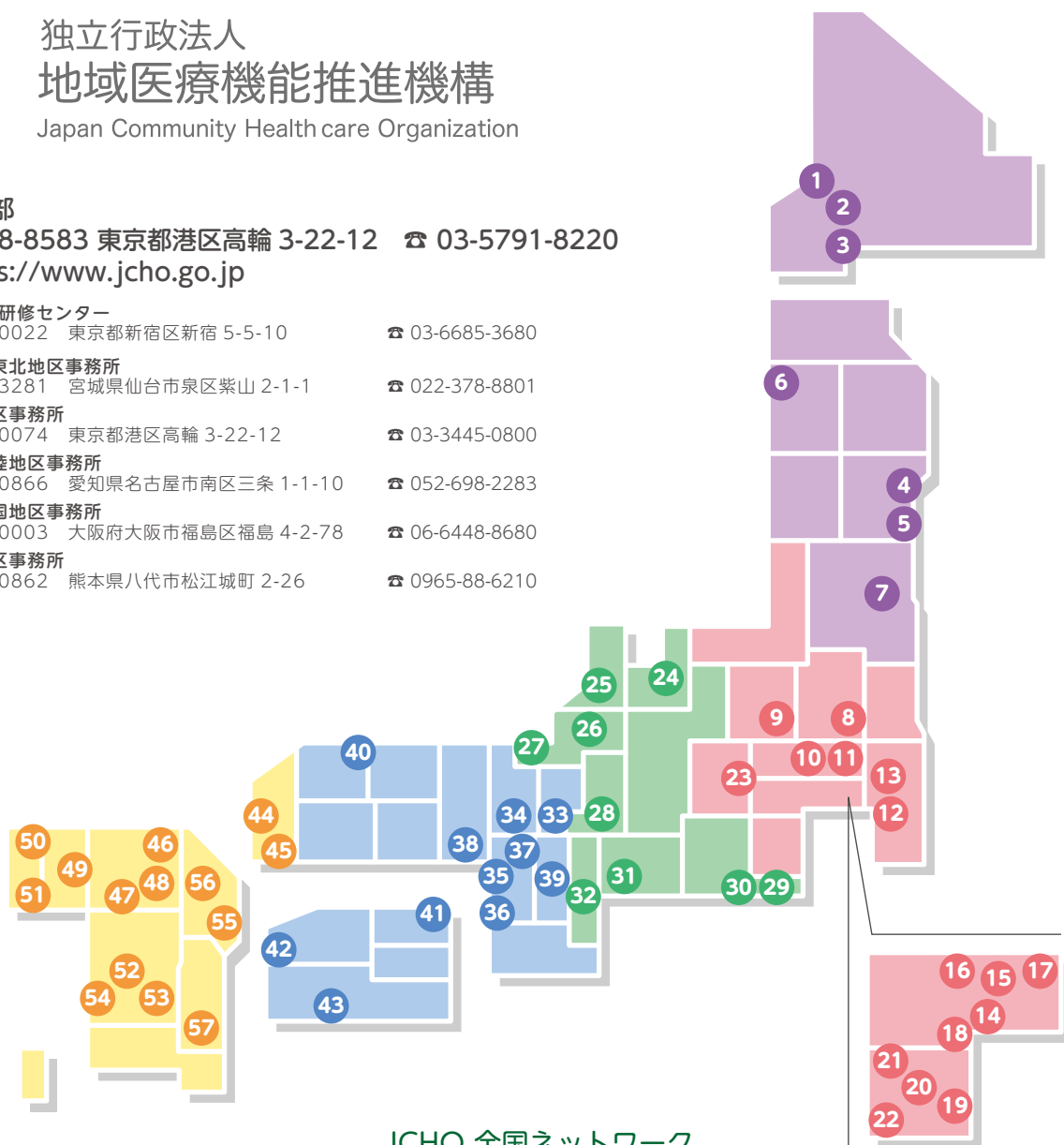
〒457-0866 愛知県名古屋市南区三条 1-1-10 ☎ 052-698-2283

近畿四国地区事務所

〒553-0003 大阪府大阪市福島区福島 4-2-78 ☎ 06-6448-8680

九州地区事務所

〒866-0862 熊本県八代市松江城町 2-26 ☎ 0965-88-6210



JCHO 全国ネットワーク

九州地区

- 44 下関医療センター
- 45 徳山中央病院
- 46 九州病院
- 47 久留米総合病院
- 48 福岡ゆたか中央病院
- 49 佐賀中部病院
- 50 松浦中央病院
- 51 諫早総合病院
- 52 熊本総合病院
- 53 人吉医療センター
- 54 天草中央総合病院
- 55 南海医療センター
- 56 湯布院病院
- 57 宮崎江南病院

東海北陸地区

- 24 高岡ふしき病院
- 25 金沢病院
- 26 福井勝山総合病院
- 27 若狭高浜病院
- 28 可児とうのう病院
- 29 桜が丘病院
- 30 三島総合病院
- 31 中京病院
- 32 四日市羽津医療センター

近畿四国地区

- 33 滋賀病院
- 34 京都鞍馬口医療センター
- 35 大阪病院
- 36 大阪みなと中央病院
- 37 星ヶ丘医療センター
- 38 神戸中央病院
- 39 大和郡山病院
- 40 玉造病院
- 41 りつりん病院
- 42 宇和島病院
- 43 高知西病院

関東地区

- 8 うつのみや病院
- 9 群馬中央病院
- 10 さいたま北部医療センター
- 11 埼玉メディカルセンター
- 12 千葉病院
- 13 船橋中央病院
- 14 東京高輪病院
- 15 東京新宿メディカルセンター
- 16 東京山手メディカルセンター
- 17 東京城東病院
- 18 東京蒲田医療センター
- 19 横浜中央病院
- 20 横浜保土ヶ谷中央病院
- 21 相模野病院
- 22 湯河原病院
- 23 山梨病院

北海道東北地区

- 1 北海道病院
- 2 札幌北辰病院
- 3 登別病院
- 4 仙台病院
- 5 仙台南病院
- 6 秋田病院
- 7 二本松病院



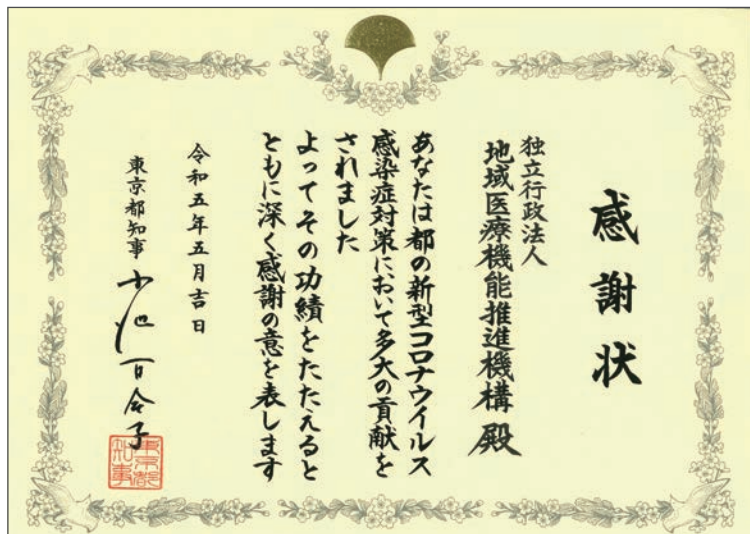
JCHO NEWS

Japan Community Healthcare Organization NEWS



JCHO:東京都立病院機構と包括連携協定！
仙台病院:宮城大学との包括連携協定!!

- 02 東京都からの感謝状を受領
千葉病院新築工事現場視察
- 03 メッセージ
Shu'sRoom
- 04 包括連携協定
JCHO×東京都立病院機構
- 05 包括連携協定
仙台病院×宮城大学
- 06 佐賀中部病院の
広報活動紹介
- 07 パブリック
リレーションズ
- 08 病院機能評価
玉造病院
- 09 JCHOで育成する
総合診療医
- 10 トピックス
経営強化
集中期間について
- 11 トピックス
第8回
JCHO地域医療
総合医学会の案内
- 12 JCHO GROUP
JCHO
全国ネットワーク



新型コロナウイルス感染症対策における 東京都からの感謝状受領!



JCHOは、今後も引き続き東京都や近隣医療機関と密な連携をはかり、感染拡大防止に努めていきます。
あらためて新型コロナウイルスの感染へのリスクを抱えながらも、最前線で奮闘する職員の皆様に、心から敬意と感謝を申し上げます。



千葉病院 ちーぱびょん

名前：ちーぱびょん
お仕事又は活動内容：看護師さんの就職活動等の広報活動
出身：千葉県千葉市のピーナッツ畑

千葉市仁戸名町にウサギとして生まれ早数年、千葉病院を愛してやまない「ちーぱびょん」です。皆さんの心と身体がピョンピョン弾むような元気印のキャラクターを目指しています。見かけたら声をかけてね!

千葉病院 新築工事現場視察(左から高橋事務長、山本理事長、岡住病院長)

メッセージ

良質な医療を継続するために

病院経営・総合診療医担当理事 楠 進

地域に根ざした医療を行うことが第一の使命であるJCHOの病院にとっては、地域の患者さんたちが望む「良質な医療」を提供することが何よりも大切なことです。医療従事者である医師・看護師やメディカルスタッフの方々は、そのための専門教育を受け、理想を実現すべく日夜努力されていることと思います。

一方で、良質な医療の提供が持続可能であるためには、経営が安定していることが不可欠です。経営については、病院長をはじめとする病院の幹部が主として担当するものとおられる方が多いと思います。それはその通りなのですが、実は全ての職員の協力がなければ実現することが難しいのも事実です。

日本の医療は保険制度に基づいているので、そのルールを熟知している必要があります。例えば、JCHOの多くの病院はDPC対象病院となっています。DPCというのはDiagnosis Procedure Combinationの略で、診断群分類によって1日あたり病院に支払われる額が決まってくる制度です。このDPCのルールを考慮に入れて診療しているかどうかで、同じことをしていても収入が大きく変わってくるのです。

医療は患者さんの健康や命を預かる大変な仕事です。医療従事者の方々は、そのために細心の注意を払わなければいけません。ただ、それに加えて経営的な視点も入れていただくことがよい医療を持続可能とするためには大切なことです。最初にも書いたように、医療従事者は医療に関する専門教育はしっかりとうけていますが、経営的なことについてはそれほど知らない方が多いと思います。ですから、病院内の風通しをよくして、経営に詳しい事務の方が医療従事者に情報提供しやすい雰囲気を作ることも重要です。

職員が一致団結して、各人が少しでも経営的視点も持って一步を踏み出せば、JCHO全体としては大きな一歩になると思います。良質な医療の提供を持続可能とするため、引き続きよろしくお願いいたします。



Shu's Room

現場のみなさんとの対話会を始めました。これから1年以上かけて全病院の若手職員と対話していきます。ぜひみなさんのご意見をお聞かせください!



東京都立病院機構との 包括連携協定を締結

JCHOと地方独立行政法人東京都立病院機構において、双方が有する臨床フィールドや教育研究力等を活用することにより、医療の充実向上等に資することを目的として、2023年7月18日に包括連携協定を締結しました。

具体的な連携事項

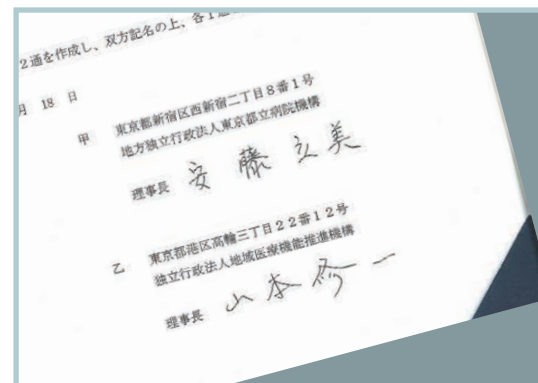
① 人材育成に関する事項

研修活動などを通じて職員の交流を図り、異なる病院間での知識や経験を共有することで、医療の質の向上を図ること。

② 病院運営に関する情報共有

人材の確保・活用、経営管理、調達、病院グループとしてのガバナンスなど、お互いの持つ課題を共有し、その解決のために連携・協力関係の強化を図ること。

③ その他、協議に基づく連携。



本協定は、今年度から始まった国立大学病院長会議との医療材料の共同調達事業を契機に、締結の流れとなりました。

当面、医師の働き方改革を背景に、特定行為研修の相互協力を進めていくなど、看護研修の相互受け入れを始めていき、将来的には、各種メディカルスタッフである専門職も含めることを検討していきます。

また、病院運営の情報共有として、複数の公的な役割を担う病院を有するグループ同士、病院運営のノウハウの共有やスケールメリットを発揮した取組の推進など、連携を深めることで、課題を共有していき、その課題の解決に向けての連携強化を図ることで運営の最適化を目指していきます。



東京都立病院機構
安藤理事長

山本理事長

JCHO仙台病院と公立大学法人宮城大学 包括連携協定



2023年6月、当院と公立大学法人宮城大学は看護人材の育成を主軸とする「包括連携協力に関する協定書」を締結しました。この協定は当院の専門的な看護と宮城大学の教育・研究のノウハウを融合し、これからの保健・医療環境のニーズに応じた人材の輩出と、地域の健康増進に貢献していくことを目的としています。



協定に至った背景には、これまでの学生の臨地実習指導や病院看護職員の研修分野での協力関係を踏まえ、病院と大学の親和性を高め、看護教育ならびに看護実践の質の向上を図るという趣旨があります。加えて当院と宮城大学が隣接する地域は住民の高齢化が顕著であり、フレイル対策など保健環境の整備は共通の課題です。双方が協調することで教育環境の向上と地域の安心感の醸成に寄与していきます。

また、本協定で松邑看護部長は臨床教授を拝命し、看護学群全体の実習カリキュラムの統括や開発に協力・助言を行い、地域に優れた人材育成を創出する役割を担います。さらに、宮城大学 佐々木学長には当院の地域連携協議会の委員に就任いただき、地域社会にかかる見識を賜ります。厚生労働省が提唱する「保健医療2035」を見据える本協定の効果は、地域社会全体に波及されるものとなっています。

村上病院長は本協定の締結にあたり「新たな医療のレベル、教育を含め、人材がステップアップできる体制が整いました。地域の方々に大きな貢献になると確信しています」と述べ、今後の発展と健勝を祈念しました。



看護学群長
高橋 和子

宮城大学
学長
佐々木 啓一

理事長
佐野 好昭

病院長
村上 栄一

JCHO 仙台病院
看護部長
松邑 恵美子

事務部長
小畑 孝志

JCHO佐賀中部病院 の広報活動



～「睡眠時無呼吸センター」開設の一例～

近年増加傾向にある「睡眠時無呼吸症候群」は、放置して重症化すると心筋梗塞や脳梗塞、眠気による事故などを引き起こし、死亡率が高くなる怖い病気です。

昼間の説明できない眠気やひどいびき、睡眠中の呼吸停止があるときは早めの受診をお勧めします！

プレスリリース(睡眠時無呼吸センター 開設)

Press Release

報道各位



独立行政法人 地域医療機能推進機構
佐賀中部病院
JCHO
Saga Central Hospital

2023年5月19日

睡眠時無呼吸センター開設のお知らせ

独立行政法人地域医療機能推進機構(JCHO)佐賀中部病院は、令和5年6月1日に睡眠時無呼吸センターを開設し、初代センター長に門司恵(もんじ・めぐみ)が就任しましたのでお知らせいたします。

門司センター長コメント

当院では佐賀県内の病院に先駆けて2000年に睡眠時無呼吸症候群診療を開始しました。

現在、精密検査である終夜睡眠ポリグラフ検査(Polysomnography: PSG)を行う佐賀県内の主要施設として、23年間で2300名を超える新規患者様の診療を行ってまいりました。

この度、呼吸器内科・循環器内科医師5名と日本睡眠学会認定検査技師を含む検査技師と共に睡眠時無呼吸センターを開設することとなりました。これまで以上にきめ細かい診断・治療を行うことができる体制となりました。

<略歴>

平成10年 佐賀医科大学卒業。佐賀大学医学部附属病院、佐賀県医療センター好生館、唐津赤十字病院、NHO佐賀病院等を経て、平成31年より当院呼吸器内科医長。

■睡眠時無呼吸症候群とは

睡眠時無呼吸症候群とは睡眠中に呼吸が停止してしまう病気です。呼吸が停止すると血液中の酸素濃度が低下するため、患者さんは自分では気づかなくても一瞬目が覚めて再び呼吸をはじめます。

しかし眠りだすとまた呼吸が停止してしまいます。

これを一晩中繰り返すため、深い睡眠が取れなくなり、日中に強い眠気が出現します。10秒以上の呼吸停止が1時間あたり20回以上出現するような中等症・重症の睡眠時無呼吸症候群を放置すると、心筋梗塞・脳梗塞・生活習慣病・眠気による事故などを引き起こし、死亡率が非常に高くなります。

日中の説明できない眠気、充足感のない睡眠やひどいイビキ、睡眠中の呼吸停止がある場合には早めに医療機関で検査・治療を受けることが大切です。

<お問い合わせ先>

JCHO佐賀中部病院 総務企画課 担当:一尾 電話 0952-28-5311

メール ichio-shinobu@saga.jcho.go.jp



public relations

【パブリックリレーションズ(PR)の目的】

PRは、商品やサービスだけでなく、組織や人物などの認知度や好感度をメディアの力を活用して高め、購買意欲や親近感を向上させるのが主な役割です。広告宣伝と違い多額な費用負担になりません。

「商品をPRする⇒顧客がそれを認知する⇒購買意欲が高まる⇒実際に購入に至る」という流れを作ることが、PR活動における目的となります。



JCHO佐賀中部病院 病院長 園 畑 素 樹



私が今年4月に病院長に就任し、まず取り組んだのが、当院のプレゼンス(存在感)を高める事でした。今回ご紹介するのは、病院長研修のテーマの一つでもあった「マスコミへの広報活動」です。

まず各診療科・部門の仕事内容を調査し、呼吸器内科が行っている睡眠時無呼吸に目を付け、呼吸器内科、循環器内科、認定検査技師、栄養管理士を含めたセンターを開設することを決めました(毎週カンファレンスを開催)。門外漢である整形外科医の病院長が急に言い出したことなので、若干の逆風はありました。

次に、プレスリリース(報道関係者向けの資料)を作成し、佐賀県庁の記者クラブへ自ら出向き配布しました。記者の方と名刺交換を行い、『睡眠時無呼吸センター開設』についてその内容と意義について丁寧に説明することができました。

その結果、多くのマスコミに取り上げられ、センター長、副センター長にも多数の取材対応をこなしてもらい、本年12月には市民公開講座を開催することも決定しました。

活動に関する経費ですが、箱モノの増設や専用の部屋の確保は無く、新しい組織を設立しただけです。病院で新たに購入したものは屋内外の案内看板だけで、報道関係の掲出費用は発生しておりません。

以上、当院の広報活動の一例をご紹介しました。広報活動の効果の大きさを肌で感じ、繰り返すことの重要性を実感しました。当院の取り組みが皆様のご参考になれば幸いです。

マスコミ報道一覧 (睡眠時無呼吸センター 開設)



媒 体	メディア	内 容	報道時間など
ラ ジ オ	NBCラジオ	SASセンター開設告知	2分
		SASセンター長インタビュー	15分
テ レ ビ	NHK佐賀テレビ	SASと当院の紹介 (インタビューあり)	8分
	ぶんぶんテレビ	SASと当院の紹介 (インタビューあり)	6分(35回以上放映) 計210分以上
新 聞	佐賀新聞	SASセンター開設の紹介	紙面&web版
	毎日新聞	SASセンター開設の紹介	紙面&web版
	西日本新聞	SASセンター開設の紹介	紙面&web版
w e b	m3	SASセンター開設の紹介	web版
		SASセンター開設の紹介	web

S A S : 睡眠時無呼吸
ぶんぶんテレビ : 佐賀県内のケーブルテレビ局の略称

睡眠時無呼吸センター の案内板(新設)



病院機能評価 受審レポート

病院機能評価を受審して、病院の質改善につなげよう！

JCHO玉造病院



JCHO玉造病院 病院長 池田 登

当院では2004年9月に病院機能評価を初回受審して以後、今回で4回目の受審となります。最近、病院機能評価に関して受審までの過程に手間がかかりすぎて日常業務に支障をきたすとか、評価内容が重箱の隅をつつくようなものが多すぎるとか、診療報酬上の実質的な利益が少ないなどの理由から一部の病院で病院機能評価離れの傾向があり、受審に関しては賛否両論があります。

当院では今回の受審にあたって特に反対意見はなく、これまで通りの流れで受審に至りました。日頃当たり前のように行っている行動や仕組みをもう一度見直すことができ、その内容を第三者の目で評価してもらえる、また19年間維持してきた認定は見送るべきでないとの考えが今回の受審に繋がっています。

病院機能評価は事前の準備過程を多職種で共有することができ、病院全体に一体感が生まれます。病院機能評価は認定されることが最終目標ですが、受審までの過程が重要であると言われる所以はここにあります。

今回の受審にあたり、ご多忙の中わざわざ松江までお越しいただき、ご指導を賜ったJCHO東京新宿メディカルセンターの関根信夫病院長には紙面を借りて深謝いたします。ありがとうございました。また今回準備に携わった機能評価委員さらに受審当日まで一丸となって対応した病院職員の皆様に感謝致します。

副院長 川合 準

病院機能評価受審対策委員長という立場での参加でしたが、実際に訪問審査に立ち会うのは私自身初めての経験でした。当初懸念していた重箱の隅をつつくような不毛なやり取りはなく、指摘事項も病院の質改善に直接フィードバックできるようなものばかりでした。病院スタッフ、事務方の協力に大いに支えられ、何とか高評価を得ることができました。書類作成や予行演習等、準備はそれなりに大変でしたが、結果的に有意義な受審となりました。

総務企画課長 下田 哲也

本来ならば2020年12月に受審(更新)予定でしたが、新型コロナの影響で約2年半延期となり、5月18日と19日に受審しました。訪問審査は「試験」ではなく「支援」であるということを強く感じました。

JCHOで 育成する 総合診療医

総合診療医育成ワーキンググループ JCHO人吉医療センター 総合診療科部長 田浦 尚宏

全国ネットのJCHOには、地域に密着して幅広く地域に貢献している病院や施設が多数あり、地域に愛着をもち、地域住民の生活を継続して支えていく様々なシステムがあると考えます。私たちは、総合診療医を目指す医師がJCHOの中で充実した研修ができる環境を作り、総合医が地域で活躍し、地域を医療で支えたいと思います。各々の地域医療の特徴をいかし、専攻医が希望する研修を実現できるプログラムを検討し、指導医と学習者が共に学習できる機会を作っています。オンラインでミーティングや振り返り会を行い、2022年10月に熊本で開催された第7回JCHO地域医療総合診療医学会では、関係者みんなで集合して総合診療医育成についてシンポジウムを行いました。

総合診療医を目指す医師には、初期研修修了後にストレートで研修する医師の他、他科からキャリアチェンジで研修する医師などさまざまなパターンがあり、総合診療科を持つ基幹病院には専攻医の在籍が増える傾向にあります。専攻医と指導医の学びのために、専攻医が在籍するプログラムからの勉強会「専攻医育成のための勉強会」を2023年5月24日に行い、第2回は8月30日に行いました。また、10月3日に「JCHO総合診療医指導医フォーラム」を開催し、最近の動向、各施設の取り組みなど共有・意見交換し、指導医間のネットワークを広める予定としています。JCHO本部の協力体制のもと、単施設で行うことが難しい広報を行い、全国のJCHO病院にマッチする人材を増やし、総合診療医育成を通して地域を支えたいと考えます。



▲研修医が専攻医とシミュレーター研修

▼保健福祉医療連絡協議会



「経営強化集中期間」について

JCHOにおいては、コロナ補助金等の影響により令和3年度は約480億円、4年度は約225億円という経常収支を計上しました。一方で、この間に患者の受療行動は大きく変化し、入院・外来ともに新規患者数は令和元年度と比べて大きく減少したほか、診療報酬改定や医師の働き方改革、物価高騰等の影響により、令和5年度は7月累計で既に35億円超の赤字と、今後は非常に厳しい経営が予想されています。

こうした状況を踏まえ、令和5・6年度を「経営強化集中期間」に設定し、カテゴリⅠ（「特に経営支援が必要と思われる病院」）の14病院について、明確な必達目標と達成に向けた具体策をまとめた「集中取組計画」を策定いただくこととしました。

JCHO本部企画経営部長 中村 彩子

7月の経営強化本部では、各病院から提出された計画案をもとに、各病院の強みを改めて確認し、他院との連携や診療報酬改定の動向も踏まえた病棟運営等の経営プランについて、具体的な議論が交わされました。

今年度はJCHOになって10年目、第三期中期計画を策定する節目の年に当たります。既に地域での病院再編や地域医療連携推進法人の設立等、次期計画期間に向けて積極的に見直しを検討している病院もあります。この2年間で契機として、地域で築いてきた信頼や基盤の上に各病院が今後も地域に必要な医療を提供し続けられるよう、本部・地区事務所も一体となって支援していききたいと思います。

【集中取組計画】(イメージ)

●●病院(令和5年●月時点)

「将来的に経営が困難になるおそれがある病院の共通課題」	自院の現状自己評価(認識)	(理由)
1. 患者数の減少 人口減少が著しい、又は同一医療圏に競合病院が複数ある等により、患者獲得が困難な地域に所在すること	×	人口減少は●年まで続く傾向にある
2. 医師等の確保 病院機能を果たすための医師等の人員確保が困難であること	△	○科においては欠員補充の目途は立っているが、□科においては苦慮している
3. 収支見込 紹介・逆紹介率が低く、入院診療単価・手術件数が増える見通しがないなど、必要な運営費を確保することが難しい状況であること	△	回復傾向にあるが、十分ではない
4. 建替の可能性 建物が老朽化しており、建替シミュレーションにおいて今後建替に必要となる収益等の確保が非現実的な状況であること	×	築●年で老朽化による各所に不具合が生じている
5. 地元自治体との関係 地元自治体より、寄付講座の設置や補助金の給付等、病院存続に向けた十分な支援がないこと	△	自治体は良好関係であり、地域での存続を期待しているが、寄付金講座の設置や補助金の給付は十分ではない

「経営強化集中期間」 (令和5年4月～令和7年3月末) 2年の間に達成する事項	(具体的な方策等)	(期限)
---	-----------	------

検討ポイント: 1、2、3、4

(1) 収支改善 ※○○年後の建替を想定 ・病床利用率●%以上 ・入院診療単価●円以上 ・令和5年度・令和6年度で●●円以上の収支	①強みである○科の病床を○床増やし、収益性の低い□科は○年までの間に段階的に縮小(入院廃止)する ②施設基準●の上位基準●を取得 ③手術枠を●コマ増やす ④DPC入院期間を意識したパスの見直し	①令和●年●月 ②令和●年●月 ③令和●年●月 ④令和●年●月
---	---	--

検討ポイント: 1、3、5

(2) 地域連携強化 ・紹介割合●%以上 ・逆紹介割合●%以上	①連携推進法人への参画 ②営業エリアを広げ、連携施設を●施設増やす ③医師別の逆紹介割合を見える化して逆紹介割合の推進を促す	①令和●年●月 ②令和●年●月 ③令和●年●月
---------------------------------------	--	-------------------------------

検討ポイント: 3、5

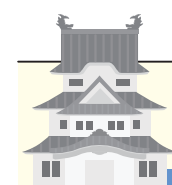
(3) 地域での貢献 ・救急応需率●%以上 ・救急からの入院率●%以上	①日中は、救急を担当制とする ②医師別の応需率・入院率を見える化して応需率の推進を促す ③①②等で救急対応を強化し、地域での評価を高め、十分な支援を行政へ要望する	①令和●年●月 ②令和●年●月 ③令和●年●月
---	---	-------------------------------

※「将来的に経営が困難になるおそれがある病院の共通課題」を踏まえ、「経営強化集中期間」(令和5年4月～令和7年3月)2年の間に達成する事項を記載

第8回 JCHO地域医療総合医学会 in Mie へのご招待

JCHO四日市羽津医療センター 病院長
住田 安弘

第8回JCHO地域医療総合医学会は来たる令和5年12月8日(金)、9日(土)の2日間、三重県津市の三重県総合文化センターで開催します。メインテーマである「ポストコロナの地域医療戦略」ではJCHO地域医療総合医学会初のディベートセッションを開催し、今後の患者増加策などについて考えます。特別講演は「とくダネ!」のメインキャスターを務められた小倉智昭さんをお呼びしました。皆様方から応募いただいた一般演題は478演題に上ります。三重県は観光と食に秀でた地域なので「学ぶ・見る・食べる」の楽しい思い出を作っただけいたら幸いです。皆様のお越しをお待ちしております。



第8回JCHO地域医療総合医学会 開催スケジュール(予定)

会場: 三重県総合文化センター

2023年9月27日現在

【1日目】 12月8日(金)	【2日目】 12月9日(土)
8:30～ 受付開始	7:45～ 受付開始
9:40～9:55 開会式	8:15～9:15 モーニングセミナー
10:00～11:00 会長講演	8:45～12:00 理事長講演 会長企画 継続テーマシンポジウム Meet the Professor シンポジウム 一般演題(口演発表・ポスター発表)
11:05～12:05 職場チームによる業務改善の取り組み発表・最優秀賞審査 一般演題(口演発表・ポスター発表)	12:10～13:10 ランチョンセミナー
12:20～13:20 ランチョンセミナー	13:20～15:30 Meet the Professor 継続テーマシンポジウム 一般演題(口演発表・ポスター発表)
13:35～14:20 Meet the Professor 一般演題(口演発表)	15:35～ 閉会式
14:45～15:45 特別講演	
15:50～16:20 職場チームによる業務改善の取り組み表彰式	
16:30～18:10 継続テーマシンポジウム シンポジウム 一般演題(口演発表)	
18:30～ 懇親会	

※ スケジュールは、変更する場合がありますのでご了承ください。

・最寄駅の「津駅(西口)」より会場の「三重県総合文化センター」エントランスまでシャトルバスの運行を予定しています。
・ランチョンセミナー、モーニングセミナーは、事前登録制(オンラインによる「個人登録」)です。
・セミナーの登録方法や、日程表等の最新情報は、HPをご確認ください。

[第8回JCHO地域医療総合医学会ホームページ] <https://www.jchs.or.jp/jcho2023/>



北海道東北地区

北海道	北海道病院	062-8618 北海道札幌市豊平区中の島1条8-3-18	Tel.011-831-5151
	札幌北辰病院	004-8618 北海道札幌市厚別区厚別中央2条6-2-1	Tel.011-893-3000
	登別病院	059-0598 北海道登別市登別東町3-10-22	Tel.0143-80-1115
宮城	仙台病院	981-3281 宮城県仙台市泉区紫山2-1-1	Tel.022-378-9111
	仙台南病院	981-1103 宮城県仙台市太白区中田町字前沖143	Tel.022-306-1711
秋田	秋田病院	016-0851 秋田県能代市緑町5-22	Tel.0185-52-3271
福島	二本松病院	964-8501 福島県二本松市成田町1-553	Tel.0243-23-1231



仙台病院 ずんずん

名前：ずんずん
お仕事又は活動内容：広報活動全般
出身：宮城県仙台市泉区紫山
身長：39cm
体重：ずんだの実39個分

仙台の名物「ずんだ」を頭に乘せている妖精。
JCHOの「H」と「O」に見えるほっぺたの赤みが特徴。
ポシェットの中にはいつも救急セットが入っている。
みんなの心に花を咲かせるような優しい心を持っている。

関東地区

栃木	うつのみや病院	321-0143 栃木県宇都宮市南高砂町11-17	Tel.028-653-1001
群馬	群馬中央病院	371-0025 群馬県前橋市紅雲町1-7-13	Tel.027-221-8165
埼玉	さいたま北部医療センター	331-8625 埼玉県さいたま市北区宮原町1-851	Tel.048-663-1671
	埼玉メディカルセンター	330-0074 埼玉県さいたま市浦和区北浦和4-9-3	Tel.048-832-4951
千葉	千葉病院	260-8710 千葉県千葉市中央区仁戸名町682	Tel.043-261-2211
	船橋中央病院	273-8556 千葉県船橋市海神6-13-10	Tel.047-433-2111
東京	東京高輪病院	108-8606 東京都港区高輪3-10-11	Tel.03-3443-9191
	東京新宿メディカルセンター	162-8543 東京都新宿区津久戸町5-1	Tel.03-3269-8111
	東京山手メディカルセンター	169-0073 東京都新宿区百人町3-22-1	Tel.03-3364-0251
	東京城東病院	136-0071 東京都江東区亀戸9-13-1	Tel.03-3685-1431
	東京蒲田医療センター	144-0035 東京都大田区南蒲田2-19-2	Tel.03-3738-8221
神奈川	横浜中央病院	231-8553 神奈川県横浜市中区山下町268	Tel.045-641-1921
	横浜保土ヶ谷中央病院	240-8585 神奈川県横浜市保土ヶ谷区釜台町43-1	Tel.045-331-1251
	相模野病院	252-0206 神奈川県相模原市中央区淵野辺1-2-30	Tel.042-752-2025
	湯河原病院	259-0396 神奈川県足柄下郡湯河原町中央2-21-6	Tel.0465-63-2211
山梨	山梨病院	400-0025 山梨県甲府市朝日3-11-16	Tel.055-252-8831

東海北陸地区

富山	高岡ふしき病院	933-0115 富山県高岡市伏木古府元町8-5	Tel.0766-44-1181
石川	金沢病院	920-8610 石川県金沢市沖町ハ15	Tel.076-252-2200
福井	福井勝山総合病院	911-8558 福井県勝山市長山町2-6-21	Tel.0779-88-0350
	若狭大浜病院	919-2293 福井県大飯郡高浜町宮崎87-14-2	Tel.0770-72-0880
岐阜	可児とうのう病院	509-0206 岐阜県可児市土田1221番地5	Tel.0574-25-3113
静岡	桜ヶ丘病院	424-8601 静岡県静岡市清水区桜が丘町13-23	Tel.054-353-5311
	三島総合病院	411-0801 静岡県三島市谷田字藤久保2276	Tel.055-975-3031
愛知	中京病院	457-8510 愛知県名古屋市中南区三条1-1-10	Tel.052-691-7151
三重	四日市羽津医療センター	510-0016 三重県四日市市羽津山町10-8	Tel.059-331-2000

近畿四国地区

滋賀	滋賀病院	520-0846 滋賀県大津市富士見台16-1	Tel.077-537-3101
京都	京都鞍馬口医療センター	603-8151 京都府京都市北区小山下総町27	Tel.075-441-6101
大阪	大阪病院	553-0003 大阪府大阪市福島区福島4-2-78	Tel.06-6441-5451
	大阪みなと中央病院	552-0003 大阪府大阪市港区磯路1-7-1	Tel.06-6572-5721
	星ヶ丘医療センター	573-8511 大阪府枚方市星丘4-8-1	Tel.072-840-2641
兵庫	神戸中央病院	651-1145 兵庫県神戸市北区惣山町2-1-1	Tel.078-594-2211
奈良	大和郡山病院	639-1013 奈良県大和郡山市朝日町1-62	Tel.0743-53-1111
島根	玉造病院	699-0293 島根県松江市玉湯町湯町1-2	Tel.0852-62-1560
香川	りつりん病院	760-0073 香川県高松市栗林町3-5-9	Tel.087-862-3171
愛媛	宇和島病院	798-0053 愛媛県宇和島市賀古町2-1-37	Tel.0895-22-5616
高知	高知西病院	780-8040 高知県高知市神田317-12	Tel.088-843-1501

九州地区

山口	下関医療センター	750-0061 山口県下関市上新地町3-3-8	Tel.083-231-5811
	徳山中央病院	745-8522 山口県周南市孝田町1-1	Tel.0834-28-4411
福岡	九州病院	806-8501 福岡県北九州市八幡西区岸の浦1-8-1	Tel.093-641-5111
	久留米総合病院	830-0013 福岡県久留米市柳原町21	Tel.0942-33-1211
	福岡ゆたか中央病院	822-0001 福岡県直方市大字感田523-5	Tel.0949-26-2311
佐賀	佐賀中部病院	849-8522 佐賀県佐賀市兵庫南3-8-1	Tel.0952-28-5311
長崎	松浦中央病院	859-4594 長崎県松浦市志佐町浦免856-1	Tel.0956-72-3300
	諫早総合病院	854-8501 長崎県諫早市永昌東町24-1	Tel.0957-22-1380
熊本	熊本総合病院	866-8660 熊本県八代市通町10-10	Tel.0965-32-7111
	人吉医療センター	868-8555 熊本県人吉市老神町35	Tel.0966-22-2191
	天草中央総合病院	863-0033 熊本県天草市東町101	Tel.0969-22-0011
大分	南海医療センター	876-0857 大分県佐伯市常盤西町7-8	Tel.0972-22-0547
	湯布院病院	879-5193 大分県由布市湯布院町川南252	Tel.0977-84-3171
宮崎	宮崎江南病院	880-8585 宮崎県宮崎市大坪西1-2-1	Tel.0985-51-7575

地区事務所

本部	〒108-8583	東京都港区高輪3-22-12 3F
北海道東北地区事務所	〒981-3281	宮城県仙台市泉区紫山2-1-1 仙台病院 3F
関東地区事務所	〒108-0074	東京都港区高輪3-22-12 1F
東海北陸地区事務所	〒457-0866	愛知県名古屋市中南区三条1-1-10 中京病院健康管理センター内
近畿四国地区事務所	〒553-0003	大阪府大阪市福島区福島4-2-78 大阪病院別館 3F
九州地区事務所	〒866-0862	熊本県八代市松江城町2-26 熊本総合病院健康管理センター棟 4F



JCHO NEWS

Japan Community Healthcare Organization NEWS



02 湯河原病院
タイ国 社会開発
人間安全保障省来訪

03 メッセージ
Shu'sRoom

04 事務職員採用内定式・
新入職員研修

05 活躍できる薬剤師の
養成を目指して

06 九州病院の取組み

07 中京病院の取組み

08 大和郡山病院の
広報活動

09 JCHO本部
広報勉強会

10 トピックス
病院機能評価
天草中央総合病院

11 トピックス
JCHOで育成する
総合診療医

12 JCHO GROUP
JCHO
全国ネットワーク

表紙

JCHO大阪病院小児病棟
クリスマス

2023.09.28

JCHO湯河原病院

タイ国

社会開発人間安全保障省 来訪

JCHO湯河原病院 事務長 井澤 裕匡

令和5年9月28日(木)にタイ国の社会開発人間安全保障省・国際部長、同省・ASEAN課長他の3名が湯河原町に来訪されました。

湯河原町は2019年にタイ国ブンイトー市と高齢者福祉や観光の分野で相互に協力するため覚書を締結しており、その際にも当ブンイトー市の幹部が当院(旧病院)のリハビリ部門などを視察され、現在ではタイにおける26の自治体と湯河原町で相互協力の協定が締結されております。

今回、ASEAN社会開発高官会合(SOMSWD)では、ASEAN社会福祉研修センター(ATCSW)をタイに設立し、ASEAN全域のソーシャルワークの能力向上・標準化を進めており、今後の参考に厚生労働省やJICAの他、横浜社会福祉協議会など日本の関係各所の視察等の一環で湯河原町にも来訪され、当院から院長をはじめ6名の職員が意見交換会に参加しました。

意見交換会では当院からは院長より英語にて挨拶し、松坂地域医療連携室長から当院における地域医療連携について具体的事例を交えながら紹介させていただき、その後、活発な質疑が続きました。

タイのサシピム国際部長からは、タイにおける急速な高齢化への対応について、日本の経験を参考にしながら制度・システムを策定していきたいとのことで、今後においても湯河原町に対して人材育成などの協力の希望が伝えられました。



メッセージ

JCHO病院をおすすめできますか？

医療・看護・介護・地域包括ケア・研修担当事務

田中
桜

病院機能評価受審の旗振り役として、これまで5病院の機能評価受審に同行しました。当日だけでもかなり体力・精神力を消耗することから、準備期間を経て万全の体制で臨まれる皆様方の病院機能評価にける想いは、毎回ヒシヒシと実感しております。

本部では病院機能評価の受審を促進しており、皆様のご負担を軽減すべく様々な取組を行っております。

期間限定：この機会にぜひ！

メルマガ・動画

「桜の部屋」

病院機能評価関連掲示板
(JCHO 本部ポータルサイト)

受審費用や評価機構の受審サポート利用時に係る費用等の助成も行ってます！

サーベイヤー（診療・看護・事務の3パターン）に応募しよう！

「5年に一度の受審は当然のこと。他の病院がどのような取組をしているのかをみて、自分の病院の取組の参考にしてみたい」という方、JCHO病院の医療の質の底上げに協力してください！

先日、新入職員研修にて「変化を成長のチャンスと捉えて」とお伝えしました。中からは日常風景として気付かないことも、外からの指摘で改めて認識させられることがあり、まさにこれが病院機能評価を受審する意義でもあります。第三者の指摘をきっかけに、病院改革に取り組んでいただきたいと思います。

私はこれまでどの立場においても、医師免許を持つ者として「患者さんや社会のために何ができるか」を主軸に業務を推進するよう努めてまいりました。JCHO病院が、「自分が患者だったら受診したい、大切な人にも胸を張って紹介したい」医療機関として輝き続けられるよう、お手伝いさせていただければ幸いです。



JCHO九州病院の
機能評価受審で北九州市訪問時に
小倉駅前のメーテルと。

Shu's Room

現場での対談会を始めました。
これから1年以上かけて、
全病院職員のみなさんと
対話していきます。
ぜひ、ご意見をお聞かせ
ください！



北海道病院



札幌北辰病院



横浜中央病院

事務職員採用内定式

令和5年10月2日に事務総合職(令和6年4月1日入職予定)の内定式が行われ、今年度に内定した119名がJCHO本部研修棟に集まりました。コロナウイルス感染症対策のため、ここ数年、集合形式での開催がかなわず、全国の内定者が一堂に会したのは、令和元年度の開催以来、実に4年振りのことでした。

理事長訓示、内定通知書交付、内定者の決意表明の後、内定者同士の親睦を深めるレクレーションや懇親会が行われ、内定者は和気あいあいとした雰囲気の中で入職への意識を高めました。



事務総合職 新入職員研修

新規採用事務職員が、社会人としてのマナー、職務に関連する基礎的な知識を得ると共に、職員間の交流を深めること等を目的とした研修を令和5年10月25日から10月27日の3日間、JCHO研修センター及び本部研修棟にて開催しました。

受講者から毎年好評の徳岡理事長特任補佐が講師を務めるグループディスカッションや外部講師の研修に加え、先輩職員との意見交換会等も開催され、参加者は、同期職員との交流を深めました。



未来の社会や地域を見据え、多様な場や人をつなぎ 活躍できる薬剤師の養成を目指して

JCHO東京新宿メディカルセンター薬剤部長
本部医療課薬事専門職併任

片山 歳也

現在、人口構造の変化、多疾患併存、多死社会、健康格差、増大する医療費、新興・再興感染症や災害リスクなど様々な問題に直面しています。令和4年度は、医療人として共通の価値観を共有すべく、医学・歯学・薬学で同時に教育モデルコアカリキュラムが改訂され、未来の社会や地域を見据え、多様な場や人をつなぎ活躍できる薬剤師(医療人)の養成が必要とされています。

第8次医療計画では病院薬剤師の確保が挙げられており、日本病院団体協議会(山本理事長が議長を務める)および日本病院薬剤師会は病院薬剤師確保について、「診療報酬上の要望(病棟薬剤業務や外来業務の評価等)」、「地域医療介護総合確保基金等の優先的な活用」、「薬学部卒前及び卒後教育の充実」の3項目の要望について、今夏に厚生労働大臣宛てに提出されたところであります。

これらの課題に対応すべく、JCHO薬剤師のやりがい、卒後教育、職場環境改善等について、薬事専門職会議では各地区の問題点や工夫点に関する共有を図っております。さらに薬剤部長会議でも協議を行い、自施設の薬剤師育成の在り方を再考してもらっています。就職説明会では各薬事専門職および各薬剤部長が、各地区事務所の協力・支援を頂きJCHO薬剤師のアピールを精力的に行っていますが、近年、全国で約40人程度の欠員が続いております。さらなる取り組みを通じて、薬剤師の欠員を軽減しJCHOの発展に貢献していきたいと思えます。



求める人材像

「安心の地域医療を支えるJCHO」のキャッチフレーズの下、高齢社会に対応すべく地域包括ケアの推進というミッションに共鳴していただける方に、是非来ていただきたいと思えます。また、チーム医療の要として、患者さんのことを第一に考えながら、他の医療スタッフと協働できる薬剤師を求めています。

当院の省エネルギー取組

給湯システムの最適化による節約と成果

JCHO九州病院 総務企画課 施設管理係 三村 大介
主任技能職員 (エネルギー管理士)

九州病院は、施設管理を担当する常勤職員4名を中心に、今年で20年経過した約70,000㎡の建物の維持管理、工事施工などの業務を24時間体制で行っています。また、設備設計に精通した職員が在籍しており、施設基準に対応した病院改修時の基礎設計も行っています。

当施設は省エネルギー法に基づき、第1種エネルギー管理指定工場として、エネルギーの使用の合理化及び「エネルギー使用量前年度比1%削減」が義務付けられた建物です。現在も削減目標に向けて日々努力しており、経費削減と地球環境の保全を行うため、今年度、特に給湯使用量の削減に焦点を当てました。

具体的な取組みとして、 給湯循環量の削減を目指し、以下の方法を実践しました。

- 1 給湯循環温度の調整(4月)** 給湯循環量を削減するために、給湯循環温度を60℃から65℃に変更しました。ただし、1度の温度上昇には多くのエネルギーが必要であり、削減量とのバランスが求められました。
- 2 給湯使用量の調査(4月)** 給湯使用量が多い部署を特定するため、栄養部での調理や洗浄の使用量を調査しました。
- 3 給湯循環量の削減(5月)** 栄養部の協力を得て、給湯バルブの調節を行い、給湯循環量を減少させました。結果として、給湯循環量が1か月平均で1/3に減少し、上下水道料金が約40万円/月減少し、蒸気使用量の減少により年間予想で約480万円の経費削減を見込んでいます。

今年度の夏期は外気温が高く、冷房によるエネルギー使用量が増加しました。そのため、来年度も引き続き省エネを検討し、我々が病院の安全・安心を守るという帰属意識をしっかりと持ちながら、更なる経費削減と病院経営の健全化に貢献していく所存です。



施設管理係



栄養部給湯



バルブ調整

JCHO中京病院

JCHO中京病院 事務部長 木下 敦士

topics.01

放射線治療棟がオープン!

中京病院は名古屋市南部の地域の核となる基幹病院であり、救急医療、熱傷や小児循環器疾患の診療、腎移植など幅広い分野に力をいれ、がん診療拠点病院としての役割も担っています。

がん診療を含めた急性期医療のさらなる充実を図るため、救急外来・救命救急センター・手術室・ICU等を配置した新館の建築工事を進めております(2025年12月竣工予定)。この度、新館に先駆けて放射線治療棟が完成し、2023年11月6日より稼働しました。

これにより、患者さんや従事者の動線効率が従来より非常に高くなり、様々な負担軽減にもつながっております。

地域により良い医療を提供するため、中京病院全体で強い目的意識をもって取り組んでいます。



チューちゃん
ハムスターの
チューちゃんの
特技は注射



topics.02

世界骨粗鬆症デー(WOD)イベント開催!

中京病院OLS(osteoporosis liaison service)チームが、10月20日の世界骨粗鬆症デーにちなんで「あなたの骨は密ですか?」をテーマに、近隣の商業施設(イオンモール新瑞店)でイベントを開催しました。

超音波による骨密度測定と、ロコモチェック(サルコペニアの目安となる握力測定)を行い、測定結果について医師が個別に説明したり、薬剤師・管理栄養士による骨折予防のアドバイスをしたり、とても大盛況で600名以上の集客があり、『中京病院は診療以外にこのような催し物もされるのですね!』と声を寄せられました。

今後は南区だけではなく、熱田区にも足を延ばし、地域住民の健康増進のために地域貢献に取り組んでいきます。



キョーちゃん
九官鳥の
キョーちゃんの特技は救急対応



JCHO 大和郡山病院の広報活動

「共感」、そして「思い」をひとつに 広報誌「いちよっつ」

JCHO大和郡山病院
広報委員会委員長
診療放射線技師長

中尾 哲

大和郡山病院の広報委員会では今、「伝える」ことを大きな目的として活動しており、その委員会活動のひとつ、職員向け院内広報誌「いちよっつ」をご紹介します。

院内広報誌「いちよっつ」は、「新しいことに取り組んでみよう」そんな思いのある有志のメンバーでスタートしました。創刊からおよそ2年、今は正式に広報委員会の業務のひとつとして、年6回、定期的に発行しています。

委員会メンバーは多職種で構成され、当院で働くさまざまな職種や人が「今どんなことに取り組んでいるのか」、「今どんなことを考えているのか」など、部署の垣根を越え、相互理解を深めることを目指しています。それぞれ忙しい業務の中記事の取材や写真撮影など、笑顔と積極的な活動で盛り上げてくれています。手作り感が満載の広報誌ですが、委員会メンバー全員が愛情を込めて創作し、職員のみなさんにお届けしています。

これからも、大和郡山病院の「みんなが知らない部分」をどんどん掘り起こし、未来につながるような新しく明るい話題、楽しい出来事などを紹介して行きます。

ちなみに、「いちよっつ」は、当院の代表番号の下4桁から命名しました。





広報委員会のメンバー



本部 広報勉強会を開催

理事長特任補佐 徳岡 晃一郎

昨年に続き、本年度もJCHO本部においてWeb広報勉強会を行い、病院及び地区事務所から205人の参加がありました。

有識者による講義の中で、効果的なPR方法のレクチャーを受け、みなさんも新鮮な刺激を受けたことと思います。正に目から鱗が落ちた気分ではないでしょうか。

第2回広報勉強会は、2024年1月の開催を予定しております。みなさんの参加をお待ちしています。



JCHO天草中央総合病院



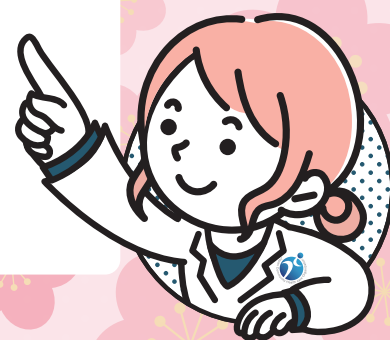
JCHO天草中央総合病院 消化器内科診療部長 岩澤 秀

当院は、病院機能評価を令和5年7月に受審し、5回目の更新受審となりました。事前の準備や院内ラウンドも行ったのですがはじめて2つのC評価を頂きました。早急に改善に取り組み、現在再審査の結果を待っているところです。病院機能評価については、形式的とか、重箱の隅をつつくとかという批判もあります。私は長年当院の病院機能評価の更新に関わってきましたが、現状では以前に比べてそのような対応はかなり減っていると感じています。

さて、組織は時代とともに変わります。管理者・中間管理職を含めた医療スタッフも変わります。構成メンバーが変わると、組織風土も変わります。以前できていたことができなくなったり、守られていたことが守られなくなったりします。何を規範にしていいいのか迷いが生じます。そのような時、振り返って規範とするものが病院機能評価と考えます。具体的には、「病院機能評価項目解説集」に記載されています。受審が決まると、この解説集に基づき、きちんとできているかチェックし、課題を探り改善していきます。これを病院全体で行います。受審までに改善し、評価をしてもらい、評価結果を基にさらに改善に取り組むという流れです。

現在、JCHOでは、病院機能評価受審の促進中とのこと。受審準備は大変ですが、やりきった達成感や職員の一体感などが醸成され、気が付かないことを指摘され改善のきっかけになります。病院をよくしたいという病院様は前向きに検討されてはいかがでしょうか。

**病院機能評価は、業務改善を通して
病院の経営や職員のモチベーションを根底から支えるための、
そして何より、
良質な医療を患者さんに提供するための重要ツールです。
JCHOの全病院が病院機能評価を受審することが
戦略目標となりました。**



JCHOで 育成する 総合診療医



総合診療医育成ワーキンググループ JCHO東京新宿メディカルセンター 内科部長 清水 秀文

JCHO内には基幹病院として日本専門医機構の総合診療専門研修プログラムを有している病院は8ヶ所あり、他のプログラムの連携施設となっている病院も多数あります。この枠組みにとらわれずに地域医療を支える総合診療医を育てようと奮闘されている施設も多いことかと思います。総合診療を担っていく医師の確保は大きな問題ですが、それと共に指導医の質の向上も課題の一つです。2023年10月3日にハイブリット形式で開催した「JCHO総合診療医指導医フォーラム」はその課題解決を目的とした活動の一つになります。JCHO若狭高浜病院の海透優太先生が中心となって企画し、奥智久先生（おく内科在宅クリニック）には「総合診療という名の最強ツールを身につけよう」というテーマで、野木真将先生（亀田総合病院総合内科・ハワイ州クイーンズメディカルセンターホスピタリスト）からはフィードバックと評価について講義していただきました。改めて総合診療及び後進の指導について学ぶ機会となったとともに、JCHO内の指導医同士のネットワークを作り上げていく時間にもなりました。今後もこうした企画を継続していき、総合診療医の育成環境改善を目指していきたいと考えています。



北海道東北地区

北海道	北海道病院	062-8618 北海道札幌市豊平区中の島1条8-3-18	Tel.011-831-5151
	札幌北辰病院	004-8618 北海道札幌市厚別区厚別中央2条6-2-1	Tel.011-893-3000
	登別病院	059-0598 北海道登別市登別東町3-10-22	Tel.0143-80-1115
宮城	仙台病院	981-3281 宮城県仙台市泉区紫山2-1-1	Tel.022-378-9111
	仙台南病院	981-1103 宮城県仙台市太白区中田町字前沖143	Tel.022-306-1711
秋田	秋田病院	016-0851 秋田県能代市緑町5-22	Tel.0185-52-3271
福島	二本松病院	964-8501 福島県二本松市成田町1-553	Tel.0243-23-1231

関東地区

栃木	うつのみや病院	321-0143 栃木県宇都宮市南高砂町11-17	Tel.028-653-1001
群馬	群馬中央病院	371-0025 群馬県前橋市紅雲町1-7-13	Tel.027-221-8165
埼玉	さいたま北部医療センター	331-8625 埼玉県さいたま市北区宮原町1-851	Tel.048-663-1671
	埼玉メディカルセンター	330-0074 埼玉県さいたま市浦和区北浦和4-9-3	Tel.048-832-4951
千葉	千葉病院	260-8710 千葉県千葉市中央区仁戸名町682	Tel.043-261-2211
	船橋中央病院	273-8556 千葉県船橋市海神6-13-10	Tel.047-433-2111
東京	東京高輪病院	108-8606 東京都港区高輪3-10-11	Tel.03-3443-9191
	東京新宿メディカルセンター	162-8543 東京都新宿区津久戸町5-1	Tel.03-3269-8111
	東京山手メディカルセンター	169-0073 東京都新宿区百人町3-22-1	Tel.03-3364-0251
	東京城東病院	136-0071 東京都江東区亀戸9-13-1	Tel.03-3685-1431
	東京蒲田医療センター	144-0035 東京都大田区南蒲田2-19-2	Tel.03-3738-8221
神奈川	横浜中央病院	231-8553 神奈川県横浜市中区山下町268	Tel.045-641-1921
	横浜保土ヶ谷中央病院	240-8585 神奈川県横浜市保土ヶ谷区釜台町43-1	Tel.045-331-1251
	相模野病院	252-0206 神奈川県相模原市中央区淵野辺1-2-30	Tel.042-752-2025
	湯河原病院	259-0396 神奈川県足柄下郡湯河原町中央2-21-6	Tel.0465-63-2211
山梨	山梨病院	400-0025 山梨県甲府市朝日3-11-16	Tel.055-252-8831

東海北陸地区

富山	高岡ふしき病院	933-0115 富山県高岡市伏木古河元町8-5	Tel.0766-44-1181
石川	金沢病院	920-8610 石川県金沢市沖町ハ15	Tel.076-252-2200
福井	福井勝山総合病院	911-8558 福井県勝山市長山町2-6-21	Tel.0779-88-0350
	若狭高浜病院	919-2293 福井県大飯郡高浜町宮崎87-14-2	Tel.0770-72-0880
岐阜	可児とうのう病院	509-0206 岐阜県可児市土田1221番地5	Tel.0574-25-3113
静岡	桜ヶ丘病院	424-8601 静岡県静岡市清水区桜が丘町13-23	Tel.054-353-5311
	三島総合病院	411-0801 静岡県三島市谷田字藤久保2276	Tel.055-975-3031
愛知	中京病院	457-8510 愛知県名古屋市中区三栄1-1-10	Tel.052-691-7151
三重	四日市羽津医療センター	510-0016 三重県四日市市羽津山町10-8	Tel.059-331-2000

近畿四国地区

滋賀	滋賀病院	520-0846 滋賀県大津市富士見台16-1	Tel.077-537-3101
京都	京都鞍馬口医療センター	603-8151 京都府京都市北区小山下総町27	Tel.075-441-6101
大阪	大阪病院	553-0003 大阪府大阪市福島区福島4-2-78	Tel.06-6441-5451
	大阪みなと中央病院	552-0003 大阪府大阪市港区磯路1-7-1	Tel.06-6572-5721
	星ヶ丘医療センター	573-8511 大阪府枚方市星丘4-8-1	Tel.072-840-2641
兵庫	神戸中央病院	651-1145 兵庫県神戸市北区惣山町2-1-1	Tel.078-594-2211
奈良	大和郡山病院	639-1013 奈良県大和郡山市朝日町1-62	Tel.0743-53-1111
島根	玉造病院	699-0293 島根県松江市玉湯町湯町1-2	Tel.0852-62-1560
香川	りつりん病院	760-0073 香川県高松市栗林町3-5-9	Tel.087-862-3171
愛媛	宇和島病院	798-0053 愛媛県宇和島市賀古町2-1-37	Tel.0895-22-5616
高知	高知西病院	780-8040 高知県高知市神田317-12	Tel.088-843-1501

九州地区

山口	下関医療センター	750-0061 山口県下関市上新地町3-3-8	Tel.083-231-5811
	徳山中央病院	745-8522 山口県周南市孝田町1-1	Tel.0834-28-4411
福岡	九州病院	806-8501 福岡県北九州市八幡西区岸の浦1-8-1	Tel.093-641-5111
	久留米総合病院	830-0013 福岡県久留米市櫛原町21	Tel.0942-33-1211
	福岡ゆたか中央病院	822-0001 福岡県直方市大字感田523-5	Tel.0949-26-2311
佐賀	佐賀中部病院	849-8522 佐賀県佐賀市兵庫南3-8-1	Tel.0952-28-5311
長崎	松浦中央病院	859-4594 長崎県松浦市志佐町浦免856-1	Tel.0956-72-3300
	諫早総合病院	854-8501 長崎県諫早市永昌東町24-1	Tel.0957-22-1380
熊本	熊本総合病院	866-8660 熊本県八代市通町10-10	Tel.0965-32-7111
	人吉医療センター	868-8555 熊本県人吉市老神町35	Tel.0966-22-2191
	天草中央総合病院	863-0033 熊本県天草市東町101	Tel.0969-22-0011
大分	南海医療センター	876-0857 大分県佐伯市常盤西町7-8	Tel.0972-22-0547
	湯布院病院	879-5193 大分県由布市湯布院町川南252	Tel.0977-84-3171
宮崎	宮崎江南病院	880-8585 宮崎県宮崎市大坪西1-2-1	Tel.0985-51-7575

地区事務所

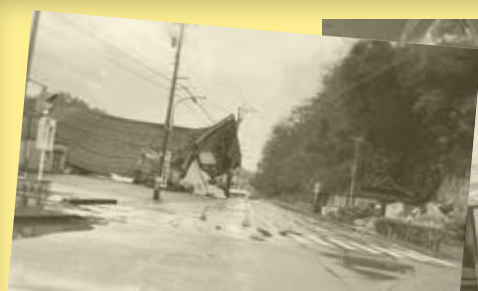
本部	〒108-8583	東京都港区高輪3-22-12 3F
北海道東北地区事務所	〒981-3281	宮城県仙台市泉区紫山2-1-1 仙台病院 3F
関東地区事務所	〒108-0074	東京都港区高輪3-22-12 1F
東海北陸地区事務所	〒457-0866	愛知県名古屋市中区三栄1-1-10 中京病院健康管理センター内
近畿四国地区事務所	〒553-0003	大阪府大阪市福島区福島4-2-78 大阪病院別館 3F
九州地区事務所	〒866-0862	熊本県八代市松江城町2-26 熊本総合病院健康管理センター棟 4F



JCHO NEWS

Japan Community Healthcare Organization NEWS

【特集】第8回 JCHO 地域医療総合医学会開催



令和6年能登半島地震において被災された方々へ心よりお見舞い申し上げるとともに
被災地の最前線において尽力されている職員のみなさまに感謝申し上げます

- 02 東京高輪病院
広報クリニック
- 03 東京新宿メディカルセンター
× 附属看護専門学校
「防災・減災」企画展示
- 04 特集
第8回JCHO地域医療
総合医学会
- 06 トピックス
職場チームによる
業務改善の取組み
- 09 コメディカル研修
- 10 ソーシャルワーカー部会
ドクターカー
中京病院
- 11 病院機能評価
九州病院
JCHOで育成する
総合診療医
横浜保土ヶ谷中央病院
- 12 Shu's Room

表紙 「能登半島地震」での活動

有識者と施設ラウンド、講義と質疑応答 JCHO東京高輪病院：広報クリニック 2023.11.28



「リハビリ庭園」改善案
一般利用も可能な表示に

コミュニケーション・
広報活動について、
的確な改善指導を受けました



普段見落としがちな部分を
別の視点でアドバイス



おつかれさまでした！



各部署多忙の中で頑張った
成果を感じました！



総評・感想

- 各部署をラウンドして、実情に即した指摘はイメージが付きやすく、
その場で改善の提案などもあり、理解しやすかった
- ラウンドを行ってからの講義がとても良かったです
改善案や自分たちでは気づかない部分の指摘がとてもためになりました



職員も地域住民も一人ひとりの防災意識の向上を！

企画
展示

関東大震災から100年 ～ 過去の災害から学ぶ、防災・減災 ～

JCHO東京新宿
メディカルセンター
×
附属看護専門学校

JCHO東京新宿メディカルセンター 総務企画課長 中澤 聡

JCHO東京新宿メディカルセンターでは2020年「ナイチンゲール・レジェンド」、2021年「インスリンミラクル」、2022年「私たちのオレンジプラン」と院内にお越しになる方に向けた展示を企画しました。

今回は関東大震災から100年をテーマにしたポスター展示です。作成にあたっては、附属看護専門学校の学生を中心に看護部、コメディカル部門、事務部等が協力し関東大震災の記録や当院の災害対策などを紹介しております。

能登半島地震でも多くの被災者が出ており、JCHO病院も看護師派遣をはじめ医療支援を実施しております。一日も早い復興をお祈りいたします。



外来入口 展示スペース

- | | |
|------------------|---|
| 1923
関東大震災 | ◆災害対策基本法 制定 (1961) |
| 1961 | |
| 1991
雲仙普賢岳噴火 | ◆災害対策基本法 改正 (1995)
◆建築基準法 改正 (1995)
◆災害拠点病院 設置 (1995)
◆JADM(日本災害医学会)(1995) |
| 1995
阪神・淡路大震災 | |
| 2002 | ◆防災士 誕生 (2002) |
| 2005 | ◆DMAT(2005) |
| 2011
東日本大震災 | ◆災害支援ナース (2011) |
| 2012 | ◆災害医療コーディネーター 誕生 (2012) |
| 2013 | ◆DPAT(2013) |
| 2016
熊本地震 | ◆災害専門看護師 (2016) |
| 2018 | ◆DHEAT(2018) |



平成 28 年熊本地震 人工透析患者の階段搬送



壊れた屋根瓦



医療救護班の活動 (久留米総合病院)



DMAT: 派遣要請

2024 (令和6年)
能登半島地震



DMAT 出動！



被災地で他チームと合流し、活動する DMAT！



2024年1月1日 能登半島地震

第8回 JCHO 地域医療総合医学会 in Mie

ポストコロナの地域医療戦略

JCHO 四日市羽津医療センター病院長
第8回 JCHO 地域医療総合医学会会長
住田 安弘

2023年12月8～9日、三重県津市県立総合文化センターにおいて、第8回JCHO地域医療総合医学会を開催しました。地域開催第2回目となった今回、約2,000名の参加者と総計537の演題をいただきました。

「ポストコロナの地域医療戦略」をメインテーマに、山本修一理事長による講演「医療界の地殻大変動に備える！」内野直樹顧問と島田信也病院長によるディベート「ポストコロナの生き残り地域医療戦略～競争か協調か～」などのセッションが行われ熱い討論が繰り広げられました。参加者の皆様方からは「よかった」との好評を得てスタッフは安堵致しましたが、これもひとえに山本理事長はじめJCHO学会理事の先生方、各病院長・職員の皆様、JCHO学会事務局、並びに本学会に貴重なお厚情を賜りました各界の皆様方に心から感謝申し上げます。



次回開催：2024年11月

宮城県仙台市



尾身 茂 名誉理事長



「職場チームによる業務改善の取組み」：表彰式



特別講演：宮本亞門さん



学会大集合



四日市羽津医療センター病院長
住田 安弘

四日市羽津医療センター



チーム名：あつまれHCUの森

最優秀賞

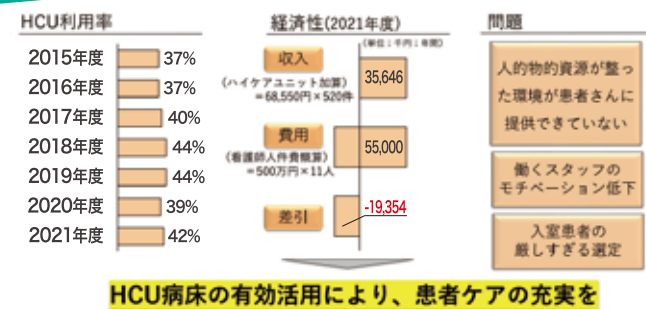
HCU病床利用率UPの取り組み ～40%→80 %台後半へ～

HCU 副看護師長 伊藤 香菜子

当院のHCUは、平均利用率が40%台と低迷し、様々な問題が発生していました。そこで、患者ケアの充実を図ろうと、2022年度より多職種で取り組みを開始しました。まずは、現状分析と課題の明確化を行い、改善策を立案しました。

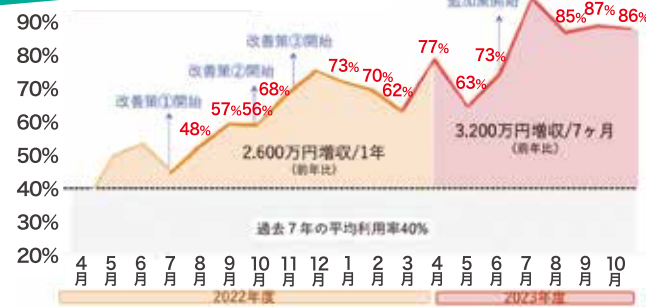
実行にあたっては、麻酔科医とHCU責任医師の全面的なバックアップを受け、初年度終了時点で利用率は70%へ上昇しました。2年目にあたる2023年6月からは、さらなる上昇を目指して追加策を実行し、現在では利用率は80%台後半・稼働率は120%以上となり、病院経営にも貢献できています。そして何より、患者安全・ケアの充実に繋がり、スタッフのモチベーションも向上しています！！

取り組みの背景

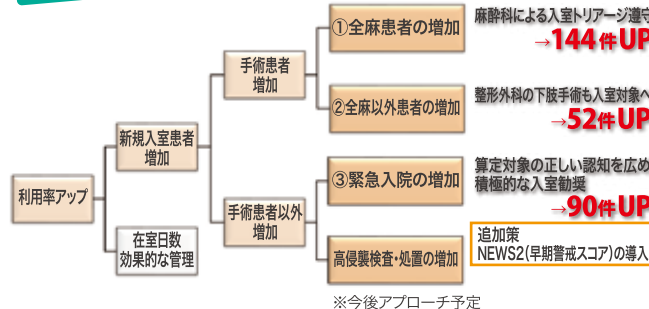


HCU病床の有効活用により、患者ケアの充実を

病床利用率



改善策と結果



まとめ

ポイント

- 細かな現状分析
- 課題の明確化
- 具体的な改善策を検討できたこと
- 医師を巻き込み、多職種で協働

現状

- HCUを有効活用し患者ケアの充実
- 病院経営に貢献
- 看護実践能力の向上
- スタッフのモチベーション向上

今後：HCU必要度の厳格化にも対応し、利用率を維持

病院長より 4床のHCUを有効活用することが、患者様の安全や収益に貢献できたことは大変意義のあることだと考えています。そして何よりスタッフが生き生き楽しみながら取り組めていることがとても良いと思います。 病院長 住田 安弘

秋田病院附属 介護老人保健施設



チーム名：カムカム(噛む噛む)エブリディチーム 秋田

経口維持加算取得件数増加のための委員会活動の取り組み

優秀賞

看護師長 伊藤 志保

今回の取り組みは、病院においてDPCや在院日数、食事介助要員などの影響で摂食機能獲得が不十分な状態での退院を余儀なくされている現状の中で、介護老人保健施設の役割を明確に打ち出した取り組みです。その結果、経口維持加算取得件数は実施前の4倍に増加しました。また利用者・ご家族の満足度も高く得られ、さらに委員会活動の活性化を通して職員のモチベーションの向上も図れました。これからも、利用者・ご家族の思いに寄り添い、“最期まで口から食べる”ことを支援していきます。



病院長より

「職場チームによる業務改善の取り組み」に初トライでの優秀賞は見事！老健職員の「最期まで口から食べる組織作り」が、形に残せたのも大きい成果です。この受賞を機に、来年度以降の新たな取り組みにも期待したい！ 病院長 大塚 博徳

大阪病院



チーム名：栄養管理委員会

栄養科部門（栄養管理委員会）のマネジメント

優秀賞

副栄養管理室長 塩田 恵理都

栄養食事指導増加を目指すだけでなく、周術期栄養管理・早期栄養管理への介入を目的としました。業務を拡張する事が【できない】のではなく、業務内容の見直しを行い、有効かつ有利な栄養管理に着目し、業務の優先順位を整理し、栄養管理の強化に努めました。幾度とミーティングを重ね改善・改革を行っていくことで、目標の達成だけでなく病院収益の増加へと貢献することも可能となりました。医師を主導とし、チーム医療の協力を得ながら管理栄養士の意識や自覚も高まり一層栄養教育に前向きに取り込むきっかけを得ることができました。

栄養食事指導 実施件数/料算定実績			
年度	総指導件数(件)	月平均(件)	収益(円)
2019年	1406	117	2,873,200
2020年	1985	165	4,742,420
2021年	3327	277	7,809,900
2022年	3810	318	9,463,800
2023年(～10月)	2545	※362	6,153,600

※2023年6月～化学療法(外来)栄養指導の取り組み開始し指導件数はさらに増加

早期栄養管理加算 介入実績		
年度	件数(件)	収益(円)
2022年(6月～)	2213	5,532,500
2023年(～10月)	1096	2,740,000

周術期栄養管理加算 介入実績		
年度	件数(件)	収益(円)
2022年(6月～)	2522	6,809,400
2023年(～10月)	2068	5,583,600

病院長より

栄養管理は、医療を安全に行い、治療効果を得る上で欠かせません。国はエビデンスに基づき実施すべき医療に加算を付けて助めています。優先順位を考え、業務を整理し、チームで栄養管理に取り組んで頂いたことを感謝します。 病院長 西田 俊朗

玉造病院



チーム名：骨粗鬆症・転倒予防チーム「TAMATSUKU RE:BONE」

**骨を折るのは私達
～骨粗鬆症治療介入と骨折予防への取り組み～**

優秀賞

主任診療放射線技師 須田 学

骨粗鬆症マネージャーを中心に多職種が専門性を発揮しながら連携し、一次骨折予防（初発の骨折を防ぐこと）、二次骨折予防（骨折の連鎖を断つこと）を目的とした骨粗鬆症・転倒予防チーム「TAMATSUKU RE:BONE」を立ち上げ、病院全体で活動をしております。

今回、優秀賞を受賞できたのは、スタッフの日々の努力と『骨折させない！』という熱い情熱の賜物だと考えております。今後も全職員が一丸となり、新たなことにチャレンジしながらチーム活動の継続と質の向上にコツコツ努めてまいります。

病院長より

多職種が連携して、今後も地域の一次及び二次骨折予防に貢献できるようバックアップしていきます。受賞に関しては、最優秀賞を確信していたので悔しい思いをしています。

病院長 池田 登



宮崎江南病院



チーム名：お薬おまかせ隊

みんなで病棟に上がろう！

優秀賞

薬剤師 白尾 桂香

この度は、優秀賞という名誉ある賞を頂き、大変光栄に思っております。

病院薬剤師不足が社会的にも注目されるなか、当院も薬剤師確保に苦勞しています。しかし、薬剤師確保に向けてのリクルート活動・業務の見直し・教育の充実を図りながら、薬剤師を確保することが出来ました。その結果、一度は算定できなくなった病棟薬剤業務実施加算を算定できるようになり、病院経営にも貢献できるようになりました。今後も病院に必要な部署として経営およびチーム医療の一員として貢献できるよう努力したいと考えております。この度は誠にありがとうございました。

病院長より

病院薬剤師不足は深刻で、当院においても病棟薬剤師業務が出来ない状態でした。医師の働き方改革が本格化する中、薬剤師の役割は益々重要です。病院薬剤師が遣り甲斐をもって働ける環境づくりも大切だと思いました。 病院長 白尾 一定

薬剤師数と病棟常駐による収益

令和5年度 メディカルスタッフ
中間管理職研修(Web) 開催

研修目標

- ① JCHOにおける人事制度・病院運営・組織・経営改善に向けた取組について理解する。
- ② 職場における主任等のあり方・役割・立場を理解する。
- ③ プレーイングマネージャーとしての自身の役割を理解し、認識した行動がとれる。

令和5年度メディカルスタッフ中間管理職研修は、医療職基本給表(二)の中間管理職を対象に、組織育成のため総勢288名参加、11月6日・15日の2日間の研修会を開催しました。

参加者の課題(ハラスメント、労務環境改善、人材育成、業務改善、経営改善、チーム医療強化等)に対して、解決の一助となればと思います。資料作成および開催にご協力頂きました本部および地区事務所の皆様、この場をお借りしてお礼申し上げます。

参加者の声



仙台病院
管理栄養室副室長 横田 悠里

副室長という立場で自分の役割について迷う事が多い中、リーダーシップやマネジメント等について具体的に学ぶ事が出来ました。日々の業務で意識して実践していきたいと思います。

東京蒲田医療センター
主任理学療法士 中里 真紀子

研修で学んだ、概念化能力・対人関係能力・業務遂行能力のうち、特に概念化より学んだスキルを活かし、トップからの伝達事項を咀嚼し、スタッフへ浸透させる実践が出来ました。学ぶことが良い判断につながると感じました。

大阪病院
副臨床検査技師長 岡崎 友美

受け身の講義だけでなく与えられたテーマについて受講者同士でディスカッションも行いました。職種を超えての意見交換や丁寧な講義を通じ、自身が今やるべき職務について学びを深める事の出来た有意義な一日となりました。

四日市羽津医療センター
主任臨床工学技士 西村 直樹

組織・人事・労務・経営分析と研修が行われ、これらを意識することが一般職とは大きく異なると感じました。ディスカッションを含めたリーダー研修を行い、同じ立場にあるスタッフと悩みや心情を共有できとても有意義な時間となりました。

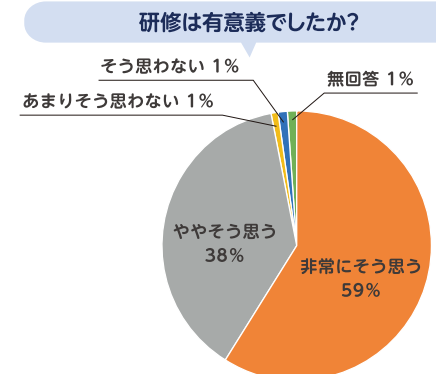


可児とうのう病院
主任薬剤師 兼松 哲史

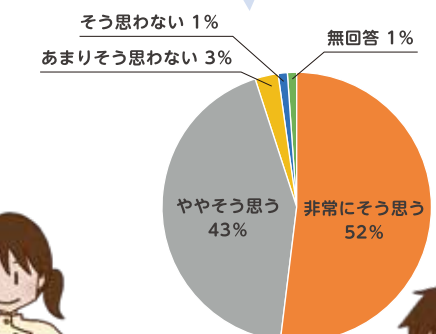
中間管理職研修に参加させていただき、自分自身の部署内での役割について再確認することができました。部下への対応、部署内における問題解決へのアプローチについての糸口をつかむことができたと感じています。

九州地区
放射線技師

全体的に定期的な継続を希望する意見が多く、グループワークを通じた多職種との意見交換は有意義であったとしています。今後、部下の成長を考える研修を希望する意見もありました。



今後の業務に活かせると感じましたか？



ソーシャルワーカー部会 待ちに待った部会立ち上げと JCHO 学会での集結

JCHO東京山手メディカルセンター
ソーシャルワーク室 主任医療社会事業専門員
柳田 千尋



ソーシャルワーカー(SW)部会は、医療社会事業員、社会福祉士、精神保健福祉士で構成。

今回は、分科会役員の紹介です。よろしくお願いいたします。

諫早:土井「SWは様々な困難な問題に対応しており、そんな問題を気軽に相談し合えるような部会にしたい」

星ヶ丘:亀谷「メディカルスタッフの研修事業拡大があり、部会として推進体制を整え、盛り上げていきたい」

桜ヶ丘:中村「部会設立に少しでもお手伝いできればと立候補」

東京山手:柳田「SWの地域展開への知恵を出し合いたい」

仙台:鈴木「全国の仲間と様々なことをシェアしたい、仙台学会を楽しみにしています」



横浜中央:佐野
スライド制作担当



救急救命士と救急車が JCHO にやってきた！

JCHO中京病院
副院長 ICU部長 感染対策室部長
真弓 俊彦



2022年、2023年から計4名の救急救命士(以下、救命士)が採用されました。今後は2024年にさらに2名を採用し6名体制とすることにより24時間対応する体制を整備、そしてこの体制をより充実させるため、2027年度までには9名体制を目指します。救命士の採用は、全国のJCHO病院のなかでも初めてで、注目を集めています。

病院で勤務する救命士も、救急車に乗っている消防の救命士と同様に救急外来で種々の処置を行えることになりました。看護師のタスクシフトにも大きな貢献をしています。

救急救命士の活躍により救急外来の勤務医及び看護職員の負担軽減につながり、名古屋市等からの救急搬送件数の増加及び救急応需率の向上につながっています。



病院機能評価 受審レポート

「病院機能評価受審～終わりは新たな始まり」

JCHO九州病院



JCHO九州病院 看護部 副看護部長 尾野 肖子

昨年10月、5度目の病院機能評価を受審しました。新しい審査3rdG:Ver3.0の内容・方法からは、いかに恒常的に適切な医療を実践できているかを問われました。受審の意義は、自院の強み弱みと向き合い課題が明確化されること、受審準備に向け病院全体が一丸となれることです。ほとんどの項目で「A適切」以上の評価を受け、ひと段落したところですが、5年に1度のイベントとならないよう、病院機能評価委員会が発足されました。継続的な取り組みを新たなスタートとして、地域にとって最適な医療の提供を目指していきます。

JCHOで 育成する 総合診療医



新宿の地域ケア視察研修の様子
「暮らしの保健室」代表 秋山正子さん(中央)と共に
左から米国の家庭医療指導医、ブラジルの内科研修医、
清水部長(新宿)、八百医長(保土ヶ谷)、医学生



JCHO横浜保土ヶ谷中央病院 総合診療科 医長 八百 壮大

JCHO発足時に旗印として始まった総合診療医の育成は、早いもので10年となりました。この間、当院の総合診療科は少しずつ地域に裾野を広げ、今では在宅医療を行っており、地域の様々な機関と連携をしています。さらに地域医療教育の場として、年間50名もの実習者(医学生や研修医、外国人医師)が訪れるようになりました。本部の協力の下、JCHO病院間でのオンライン勉強会、専攻医の振り返りや指導医講習会が発足しましたし、年に一度のJCHO学会では、全国の仲間と対面で語り合える仲です。横の結束が年々強くなっていると実感しています。さて2024年4月より、JCHO病院(新宿、人吉、湯河原)と連携した当院の総合診療専門研修プログラムで、一期生の専攻医を受け入れます。都市部も僻地も、地域包括ケアのプレイヤーとして期待される私達は、今後も良い教育の場を構築できるよう、日々楽しく実践を重ね、いっそう地域医療に貢献して参ります。記事を読んで興味を持ってくださった方は、お気軽にいつでもご連絡をください。一緒に進みましょう！



独立行政法人
地域医療機能推進機構
Japan Community Healthcare Organization



JCHOは、今後も他の医療機関等と協力しながら、引き続き支援活動に取り組んでまいります